

令和元年度第7回定例会

八王子市教育委員会議事録（公開）

日	時	令和元年7月31日（水）	午前9時30分
場	所	八王子市役所 事務棟8階	801会議室

第7回定例会議事日程

1 日 時 令和元年7月31日(水)午前9時30分

2 場 所 八王子市役所 事務棟8階 801会議室

3 協議事項

- ・令和2年度(2020年度)八王子市立小学校使用教科書用図書の採択
について (指導課)

出席者

教 育 長	安 間 英 潮
教育長職務代理者	村 松 直 和
委 員	柴 田 彩千子
委 員	笠 原 麻 里
委 員	伊 東 哲

教育委員会事務局出席者

学 校 教 育 部 長	設 樂 恵
学校教育部指導担当部長	斉 藤 郁 央
学校給食施設整備担当課長	小 林 順 一
教 育 総 務 課 長	渡 邊 聡
学 校 教 育 政 策 課 長	橋 本 盛 重
学校複合施設整備課長	高 橋 健 司
施 設 管 理 課 長	松 土 和 広
保 健 給 食 課 長	田 倉 洋 一
教 育 支 援 課 長	山 田 光
指 導 課 長	大日向 由紀子
教 職 員 課 長	溝 部 和 祐

統括指導主事	野村洋介
統括指導主事	上野和広
生涯学習スポーツ部長	小山 等
歴史文化構想担当課長	平塚裕之
生涯学習政策課長	安達和之
スポーツ振興課長	清水秀樹
スポーツ施設管理課長	佐藤晴久
学習支援課長	新堀伸晃
文化財課長	菅野匡彦
こども科学館長	遠藤讓一
図書館部長	佐藤 宏
中央図書館長	太田浩市
生涯学習センター図書館長	新納泰隆
南大沢図書館長	中村東洋治
川口図書館長	成田俊雄
指導課指導主事	鈴木崇央
教育総務課主査	長井優治
教育総務課主事	小山 ちはる
教育総務課主事	池上 光
教育総務課嘱託員	古瀬村 温美

八王子市立小学校使用教科用図書選定資料作成委員会

教科別調査部会「国語(書写)」部長	外所弘章
教科別調査部会「国語(書写)」副部長	秋吉達也
教科別調査部会「社会(地図)」部長	宇都宮 晃
教科別調査部会「社会(地図)」副部長	高橋 洋
教科別調査部会「算数」部長	小柳政憲
教科別調査部会「算数」副部長	石原一彦
教科別調査部会「理科」部長	高橋伸吉

教科別調査部会「理科」副部長	半 田 あつ子
教科別調査部会「生活」部長	山 元 敬 子
教科別調査部会「生活」副部長	辻 泰 成
教科別調査部会「音楽」部長	竹 内 浩 子
教科別調査部会「音楽」副部長	瀧 村 博 昭
教科別調査部会「図画工作」部長	飯 澤 公 夫
教科別調査部会「図画工作」副部長	長 田 猛
教科別調査部会「家庭」部長	井 上 竜 太
教科別調査部会「家庭」副部長	高 木 宏
教科別調査部会「体育(保健)」部長	山 村 晃 一
教科別調査部会「体育(保健)」副部長	平 田 英一郎
教科別調査部会「外国語(英語)」部長	河 村 真奈美
教科別調査部会「外国語(英語)」副部長	伊 藤 祐 子
教科別調査部会「道德」部長	徳 丸 幸 夫
教科別調査部会「道德」副部長	福 岡 大 作

【午前9時30分開会】

安間教育長 大変お待たせをいたしました。本日の出席は5名でございますので、
本日の委員会は有効に成立をいたしました。

これより、令和元年度第7回定例会を開会いたします。

本日は、大変大勢の方々にお越しいただいております。

八王子市教育委員会傍聴規則では、第3条におきまして、傍聴人の定員が40名と定められているところでございますけれども、教育長が必要と認める時はこれを変更することができるとのただし書きがございます。

これに基づきまして、皆様の御要望にできる限りお応えすべく、120席御用意しております。皆様方の御期待に沿えるよう、我々も真剣に審議を行ってまいりたいと思います。

本市では、地球温暖化対策、省資源対策の一環として節電等に取り組んでおります。本定例会においても、職員のクールビズを実施いたしておりますので、御理解いただきますよう、お願いいたします。

日程に入ります前に、本日の議事録署名委員の指名をいたします。

本日の議事録署名委員は、笠原麻里委員を指名いたします。よろしく願いいたします。

安間教育長 それでは、議事を進行いたします。

令和2年度（2020年度）八王子市立小学校使用教科用図書の採択についてを議題に供します。

本件について、指導課から説明願います。

野村統括指導主事 それでは、令和2年度（2020年度）八王子市立小学校使用教科用図書採択について「協議をお願いいたします。

こちらは、令和2年度から4年間、八王子市立小学校で使用する教科用図書の採択となります。平成31年4月24日決定の「令和2年度（2020年度）八王子市立小学校使用教科用図書採択要綱」に基づき、教科用図書選定資料作成委員会を設置し、調査、研究を行ってまいりました。

今回、採択を行う教科及び種目は、国語科の国語と書写、社会科の社会と地

図、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育の保健、外国語、特別の教科道徳、以上11教科13種目でございます。各委員の前に見本の教科書が置いてありますので、必要に応じて御活用ください。

それでは、よろしく願いいたします。

安間教育長 只今、指導課の説明は終わりました。

それでは、協議を始める前に、協議方法についてでございますが、今、指導課から説明があったように、採択要綱によりますと教科用図書選定資料作成委員会の報告等を参考にしながら行うということになっておりますので、まずは資料作成委員会の委員の方から御報告をいただきまして、その後、各教育委員からその報告に対する御質疑をいただく。そして、本日は現時点での御意見という形で協議を進めさせていただければというふうに思います。

本日は、11教科13種目全ての協議を行いまして、この協議の内容を1週間各委員の皆様方に熟考していただいて、次回8月7日の教育委員会定例会において、各教育委員より最終的な意見を述べていただき、各教育委員が推したい教科書の発行者の投票を行うという形で進めさせていただきたいとしたいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長 御異議ないものと認め、協議方法はそのようにいたしたいと思えます。

協議方法が決定いたしましたので、あらかじめ会議時間の延長を申し述べておきます。教育委員会規則等でこの会議時間というのは決まっていないのですが、例年昼ぐらいまでで行っているところでございますけれども、本日は、この11教科13種目、全ての協議が終わるまで実施をしたいというふうに思います。そして、おおむね2時間程度で一旦休憩を挟んで進めていく方法で行っていきたいというふうに思います。

安間教育長 それでは、協議に入ります。

まず、「国語」について、調査部会から報告をお願いいたします。

外所教科別調査部会（国語）部長 それでは、小学校国語科について、4つの観

点から調査、報告をいたします。

まず、国語科における児童の実態についてです。

過去3年間にわたる八王子市学力定着度調査の結果を見ると、話すこと、聞くことについては、基本的な内容については整理して聞き取れており、話し方の工夫についても注意を向けられるようになってきています。課題としては、聞き取った内容を簡潔な言葉で引用する力をつけることです。書くことでは、意欲は認められるが自分が伝えたいことを具体的な説明や理由を明確にして書くことに課題が見られます。読むことでは、物語文で直接的な内容の把握や登場人物の心情をつかんでいますが、会話や行動、情景と関連づけて読み取ること、また、説明文において、文と文、段落相互の関係を作ることに課題があります。言語事項では、漢字の読み、書きはよくできていますが、読書等によって得られる語彙の正答率が低い傾向にありました。

なお、この学力調査に関して、小中一貫教育施策推進委員会において、抽出校の児童、生徒の回答状況を分析して見ると、読むことにおいて、問われていることを文章中からの的確に取り出す力が不足している傾向にある答案が複数見られました。

以上のことから、市の児童には、言葉や文章にどのように関わり、何の力を獲得していくためにどのような学びをしていったら良いかが明確に示され、思考力、判断力、表現力等を育成するために、教科用図書を用いて学習指導を進めていくことが必要だと考えます。

第2に、各教科用図書の調査報告をいたします。

国語では、東京書籍、学校図書、教育出版、光村図書発行の教科用図書について調査いたしました。調査観点である内容、構成上の工夫、ユニバーサルデザインに関する配慮、使用上の便宜については、それぞれ工夫され、児童の学びを支えています。それを踏まえた上で、各社の特徴を報告いたします。

東京書籍。言葉の力という項目が単元の始めと終わりに掲載してあり、国語で育成する資質能力を的確に示しています。例えば、文学的文章、6年「ヒロシマのうた」では、冒頭で関連づけて読むと示し、単元のまとめでは、複数の作品を時、場所、人物を比べたり、作品で読んで感じたことを比べたりして読

むことで、それぞれの作品を深く味わうことができると示しています。学習過程については、青枠部で単元を貫く大きな問いが示され、「つかむ、取り組む、振り返る」により、児童がどのように学習したら良いのかが明らかであり、主体的、対話的に深い学びの実現につながっています。

学校図書。国語の鍵の項目があり、児童につけたい力が明確になっていて、それを定着させるためのポイントや学びを深めるための要点を示しています。学習過程については、学習の手引きでめあてが端的に示されています。説明つき文章では、5年「私たちとメディア」では、「全体をつかもう」でメディアとは何ですかと児童へ投げかけ、「事実を捉えよう」ではそれぞれのメディアにはどのような違いがあるのかを、また、「考えを伝え合おう」では、メディアの上手な使い手になるために皆様はこれからどうしていけば良いかを考えさせるようにしています。また、つぶやき読みが文学的文章などの下段に示され、題名から得られるイメージや登場人物などの言動に着目させ、文章と関わりながら問いを解決するようにしています。

教育出版。言葉についての項目があり、「言葉を学ぼう、言葉を増やそう」と促すことで言語力の向上を意識させようとしています。例えば、文学的文章、6年「川とノリオ」では、それぞれの場面でそれがどのような肩書があるのかを考えさせるようにしています。学習過程については、単元の扉には学習目標が示され、まとめの段階の振りかえり部分も対応しており、「確かめよう、考えよう、深めよう、広げよう」の4つのステップにより、児童が何をどのように学んでいくかが明確に示されています。そして、その下の欄には、考えを引き出すための働きかけが子どもの言葉等によって示されています。また、学習の要点が「ここが大事」で示され、他教科等への応用が効く内容が示されています。

光村図書。学習過程については、「捉えよう、深めよう、まとめよう、広げよう」の4つのステップがページ上部に示され、単元全体の課題を見渡すことができます。そして、その4つのステップの下には具体的な取り組み方が示されており、説明的文章、6年「メディアと人間社会、大切な人と深くつながるために」では、考えをまとめる時の観点として、これからの社会を生きていく

ためにどのようなことが大切になると考えるか、自分ができること、すべきことは何かを2つの教材を通して児童に問いかけ、考えを深めるようにしています。重要事項については、大切な項目が単元末にあり、児童につけさせたい力が明確になっていて、学びを深めるための要点を示しています。

第3に、市民アンケートについて報告します。

アンケート総数211のうち、国語にふれているものは31でした。その中で、最も多くふれてあるものは、教科書の厚さ、重さに関するもので、「教科書は全学年軽いものを望む」という声が14でした。続いて、装丁に関するもので、表紙、冊子絵、紙質等について、「明るくやわらかいタッチのものを望む」が4、内容に関しては「良い文学作品にふれさせたい」「内容は偏りのないものが良い」「教員が希望しているものを使ってみたい」が3でした。

第4に、市内小学校での調査から各教科書について2点ずつ報告します。

東京書籍。青色が基調となった紙面の構成であり、問いが例示されている。これを解決していくことで学びが深まっていく設定である。発展的な内容が示されており、習熟の程度に配慮している。

学校図書。学習の手引きが問題形式になっており、指導しやすく、「視点を変える」は多角的な物の見方を身につけさせるのに良い。会話により話す力と聞く力を交互に関連づけながら多様な考えを共感的に受けとめることができる。

教育出版。学びのプロセスが整っていて、学習のツールが多く例示されていて、思考を整理したり、まとめたりするための手引きが豊富である。スピーチ、対話、紹介、交流などのように、話し聞く力、聞く力が交互に関連づけられている。

光村図書。レイアウトが洗練されており、見通しをもち、どのように学べば良いかが児童に分かりやすいようになっている。文学教材が豊かで現代文化の積極的な採用があり、話題性があり、子どもたちに読みやすいものが増えており、多様な指導方法で授業を進めやすくなっている。

以上、報告を終了します。

安間教育長　　只今、調査部会の報告は終わりました。

それではまず、「国語」についての御質疑をされたいところですが、冒頭で

ございますので私のほうから幾つか基本的な御質問をさせていただきます。

国語に限らず、全教科に共通する中身でちょっと質問させていただきたいんですけれども、まず、今回の採択の調査研究もそうなのですけれども、日常の授業であるとか、教科の教育研究、そういったところが八王子市の先生方がどんな国語の教科書が使いやすいというような、そんな声がありますか。

外所教科別調査部会（国語）部長　八王子市の先生方にとっては、先ほど申し上げた児童の実態に基づき、具体的な力を身につけさせるような指導例が多く示されている教科書が良いとっております。

安間教育長　参考にさせていただきます。

もう1点、今回の教科書採択から教育センター内にある教育の指導センター、そのほかに八王子駅の南口にも教科書を閲覧できる場所を設けたわけですが、アンケートの総数というのは、前回の小学校の教科書採択の時と比べて増えましたか。

野村統括指導主事　前回の小学校の教科書採択におけるアンケートの回答数は53件ございました。今回は、教育センター内にある教科書センターで87件、八王子駅南口の教科書閲覧所で124件、あわせて211件となり、前回と比較しますと158件増加したことになります。

安間教育長　大変ありがたいことだと感じています。その上で、先ほどアンケートの概要についての説明があったのですけれども、先生方、日常で学校公開をしたりとか、さまざまな点で保護者の声を聞いていると思いますけれども、アンケートもひっくるめて、内容について、国語の教科書についてはどんな内容のものが良いというような保護者の声が聞こえますか。

外所教科別調査部会（国語）部長　基本的には、児童に深い学びを促すための文学的教材や、論理的思考を促す説明的文章というように、文章そのもののすぐれたものを求めている声が多くあります。

安間教育長　分かりました。参考にさせていただきます。

もう1点、国語についての特徴なのですけれども、学習指導要領の内容が1、2年、3、4年、5、6年と、2学年まとめて示してあって、教科書は学年ごとに発行されているわけですね。その場合、文部科学省は令和2年度の2年生、

4年生、6年生については、新しく採択した発行者の教科書、これを使用しても良いし、現在使用している発行者の教科書を使用しても良いと言って、当たり前と言えば当たり前のことなのですけれども、このことで学校現場の授業の中での不都合というものが採択がえになった場合にあるのですか。

外所教科別調査部会（国語）部長　基本的には、新しく採択された教科書を全学年使用することを望みます。理由としまして、それぞれの教科書会社には編集方針がありまして、それが同じ高学年であったり、4年と6年で内容が一貫していないと逆転現象が起きてしまったり、また、同じ教材が2つの学年に、低学年などある場合がありますので、教育の統一性から考えると同一教科書になって進めていくことが必要ですので、教科書を全て新しくすることを望みます。

安間教育長　それは、新しく教科書の発行者が変わっても問題がないことによるしいですね。

外所教科別調査部会（国語）部長　はい。

安間教育長　考えてみれば当たり前のことで、それを前提にして議論を進めていかないと、採択そのものの意味がなくなってしまいますから、そういうことを確認させていただきました。

もう1点。これも全教科共通の話なのですけれども、新しくQRコードがついている教科書が非常に多くなっていますよね。国語にもQRコードがついている教科書があるわけですが、授業中に先生が私物のスマートフォンか何かでそれを読み取って使うなどというのはあんまり好ましくないかなと思うのですが、このQRコード付きの教科書が採択された場合に、このQRコードを読み取る方法について、市教委として何か対策は講じていますか。

渡邊教育総務課長　小、中学校に導入いたしました学習用のタブレット端末、こちらのほうにQRコードリーダーのアプリケーションをインストールすることができます。したがって、当該教科書のQRコードリーダーを読み取れるよう、学習用タブレット端末で対応してまいります。

安間教育長　学校の機器でこのQRコードについては対応できて、なおかつ、視聴覚カメラがありますから、それを使って映し出したりとか、そういったことで活用できるということですね。

渡邊教育総務課長 おっしゃるとおりでございます。

安間教育長 私のほうから基本的な御質問、幾つかさせていただきました。

教育委員さんのほうから御質問があればお願いします。

村松委員 おはようございます。

詳細な報告書ありがとうございました。八王子市では、初任者や若手の教員が増えていると思います。また、研究報告をしている国語の専門の方々なのですけれども、国語を専門としない教員、若手の教員にはどのような教科書が合っているとお考えでしょうか。教えてください。

外所教科別調査部会（国語）部長 主体的、対話的に学びを深めていくためには、具体的な言語活動例がその単元等に応じて明らかに示されているものを使うことが教育にとって必要だと考えます。それは、児童の学びを多様化するために必要だからです。

伊東委員 御説明ありがとうございました。お話をさせていただきますけれども、新しい学習指導要領では従来の目的とか内容とか方法のところ、何ができるようになるのかのところ、あるいは何を学ぶのかとか、あるいはどのように学ぶのか。こういった学びの地図に関しての表現があるんですけれども、こういった新しい学習指導要領の趣旨を踏まえた時に、児童の立場から見た時、それぞれの教科書にどのような工夫があったのかを教えてくださいませんか。

外所教科別調査部会（国語）部長 各教科書会社とも巻頭見開きに学びの地図に該当するものが示されています。

東京書籍では「言葉の力」、学校図書では「何年生でつきたい力」、教育出版では「何年生で学ぶこと」、光村図書では「心の学びを見わたそう」というようにして、その学年で何をどのように学んでいくかの全体的な地図を示しています。

安間教育長 よろしゅうございますか。他にいかがでしょうか。

笠原委員 国語の教科書なので本当にたくさんの物語が載っていて、とても読みごたえのある教科書が多いのですけれども、アンケートにもあったかと思いますが、より良い作品をとということで、各教科書の中で強みと言えるような良い作品があったら教えていただければと思います。

もう1つは、高学年になって古典が大分ふれられるようになるのですが、その古典に対しても触れられている内容が少しずつ違って来るかと思うので、何か強みなどがあれば、お聞きしたいと思います。

外所教科別調査部会（国語）部長　　まず、文学的作品、あるいは説明的作品につきましては、それぞれ重要になるものはいっぱいありまして、古典的で有名なものは、例えば「スイミー」であるとか、「おてがみ」だとか「かさじぞう」、「ごんぎつね」、「大造じいさんとガン」など、多くの教科書発行者に取り上げられています。

それに加えて、新しいものとしては、光村図書では、池上彰の作品、それから教育出版では矢崎節夫であったり、松田乾のウミガメのことに触れていたりして、やっぱり話題性を今のものに持っていこうとしています。

古典につきましては、取り上げられ方はさまざまですが、語感と語彙をより大切にしながら日本の伝統的文化を読むことによって、味わうことによって、また、作ることによって感じさせるという取組がそれぞれ工夫されています。

柴田委員　　このたびの学習指導要領では、より主体的な児童の勉学に向かう姿勢というものが求められておりますけれども、本来であれば国語の教科書を主として、学級経営の中で使う言葉であるとか、それから、学校図書館を積極的に使って、読書を積極的に子どもたちが行っていくというところに結びつけるということが大事になると思います。こういった意味で、主体的に子どもたちが国語の教科に取り組もうというような工夫というものが、どういうふう今回の教科書に埋められるのかということについて教えていただければと思います。

外所教科別調査部会（国語）部長　　今、御質問のことについては全教科書会社とも工夫をしています。まず、主体的、対話的、深い学びにつきましては、先ほどそれぞれの教科書会社に示していただいたような学習過程によって配慮をしたり、その中で、それを使って、こういう場面で使ってみようとしたりといった投げかけはされています。図書につきましては、各教科書発行者で図書館の活用、図書の紹介等を踏まえてありまして、それに基づいて読みの幅を広げるということを配慮してありまして、良い図書の紹介が多数含まれております。

安間教育長　よろしゅうございましょうか。

それでは、御質疑が他にはないようでございますので、ここで、現時点で結構でございますので、各委員から御意見をいただきたいというふうに思います。

村松委員　ありがとうございました。

今、御質問をさせていただいたのですけれども、若手教員の増加に伴って、今後どのように指導すれば国語を好きな子どもたちを育成できるか。また、悩んでいる教師が多いと感じております。国語は全ての教科の基礎根幹なので、基本的な知識、理念の習得、また、主体的、対話的、深い学びの新学習指導要領を学ぶには、教員、教師が指導をしやすく、子どもが学びやすく、明確な見通しを示している教科書が必要ではないかというふうに考えております。教員にとっても、児童、生徒にとっても国語が一番重要な教科書になるというふうに私は考えて今までのこの4、5年間の八王子の学力、そういう向上を全て精査した上で決めていきたいと思っております。

以上です。ありがとうございます。

安間教育長　他にございませんか。

柴田委員　私も村松委員と同じで、国語は全ての教科の基礎となる重要な教科であると思います。国語の力を通して、物語では心情を推測してみたり、自分と違う考え方を深く考えてみたり、それから解説文の中では論理的な思考というものを身につける上でとても大事な教科だと思います。国語ではこういった教科書をどの先生もしっかりと進められるように明確な学習の進め方が示されているものであることが必要であると思いますし、また、主体的に子どもたちが興味をもって学ぶことをより促すような工夫のある教科書というものがいいのではないかと考えております。

安間教育長　ありがとうございます。

笠原委員　私も国語の重要性は本当に感じております。やはり国語の授業を通して、これだけ時間を割いて、子どもたちがより豊かな作品や考えにふれるという体験ができるということ、それから、やはり先生方が使いやすい教科書である、授業を進めやすい教科書であるということ、そして、できる限りどの先生がなさっても、あるいはどんな環境にある子どもでも比較的差のない体験がで

きるような教科書になると良いなと考えております。そのような考えで選びたいと思っております。

安間教育長 ありがとうございます。

伊東委員 私は、この単元で一体何を学ぶのかということ、どのような力を身につけるのかというようなことが、教師も、それから、子どもたちも意識できるような、そういう構成になっているような作りの教科書が良いのではないかなというふうに現時点では思っております。

以上です。

安間教育長 ありがとうございました。

それでは、本日は調査委員会の報告、並びに各委員に意見述べていただきましたので、それらを参考にしながら1週間考えていただいて、次回、最終的な御意見を賜りたいと思います。

それでは、国語については協議を終了します。

安間教育長 続きまして、「書写」について、調査部会から御報告をお願いいたします。

秋吉教科別調査部会（書写）副部長 書写について御報告をさせていただきます。

御案内のとおり、新学習指導要領では、社会に開かれた教育課程の実現、地域とともにある学校であることの大切さなどが示されました。外部教育力の導入や本物との出会い、体験をもとに話し合い活動等を進め、主体的、対話的、深い学びとしていくことが求められていると言えます。そして、そのためには学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力、実際の社会や生活で生きて働く知識、議論といった資質能力の3本柱をバランスよく育むことが重要になるとされています。

今回、こうした学習指導要領の趣旨を踏まえて、調査研究の基礎にある5つの視点から調査報告を進めてまいりました。

お手元に調査結果をお配りしておりますけれども、どの教科書もさまざまな点で学習指導要領の趣旨に沿った配慮をされておりました。教科書によって少

しずつ違いはあれど、全ての教科書がきちんとおさえるべき点をおさえていると報告させていただきます。

それでは、調査研究報告書に基づきまして、それぞれの教科書について簡単に説明させていただきます。

東京書籍なのですけれども、調査の観点、内容のところですが、めあてを児童に考えさせるような工夫がされておりまして、例えば、整っている文字はどれだろう、違うところはどこだろう、そういったような形で工夫はされているところが特徴であると思います。

同じく東京書籍、構成上の工夫、こちらのほうでは「生活に広げよう」というところがありまして、普段の生活に活用し、学びを深めたり広げたりすることをしやすくしています。理科だったり、国語ですかね、そういったことにつながっているようなページが見受けられました。

同じく東京書籍、ユニバーサルデザインに関する配慮のところは、右きき、左きき用の写真が掲示されておりまして、左ききの子どもにとっても使いやすいように工夫をされておりまして。

次に、学校図書、こちらのほうは構成上の工夫なのですけれども、たしかめて、考えて、生かしてという構成になっており、学習の進め方が明確になっております。1回使うとその次もそういった流れで学習化が進むのだ、そんなことで安心をして子どもたちが使えるだろう、そんなことを読み取りました。それと、振り返りとして書く欄を設定しており、主体的に学べるのではないかと、そして、キャラクターが話すことで対話につなげるきっかけを作れるのではないかと、そういった意見がありました。あとは、使用上の便宜のところ、毎回の注意点が見開きにまとまっているので使用しやすい、そんなふうに取り扱っていただきました。

続いて、教育出版ですけれども、構成上の工夫のところ、めあてに対して振り返りができ、主体的に取り組める。こちらは、振り返りが簡単に丸をつけられるような形になっていて、短時間で振り返りをさせることができる、そんなことを読み取りました。あとは、発達段階に応じて、低学年では指でなぞるといったところがあり、支援に必要な子どもにも分かりやすくなっている、そんな

なふうが読み取れました。ユニバーサルデザインのところは、配色やフォントも工夫をされているのではないかというふうに読み取りました。

光村図書は、構成上の工夫のところですが、めあてや大切の欄があり、つけたい力が明確になっている。そこで、見通しも持ちやすいだろうというふうに読み取れました。ユニバーサルデザインについては、一目見て学習内容が分かるように工夫をされていて、説明の文章が適量であり、シンプルで知覚的に分かりやすい、そんなふうに報告をさせていただきます。

日本文教出版、こちらのほうは、構成上の工夫のところ、考える、確かめる、生かすという構成になっておりまして、慣れると非常に分かりやすく、学習は進むのではないだろうかというふうに思います。ユニバーサルデザインのところに関しては、シンプルで使いやすい。右側ページで必要なことを確認し、左側がお手本になっているので見比べやすいと報告をさせていただきます。同じく、日本文教出版さんですけれども、使用上の便宜のところキャラクターが分かりやすく注意点を説明しており、家庭でも学習がしやすい。こんなところがそれぞれの教科書の特徴ということで報告をさせていただきます。

以上でございます。

安間教育長 只今、調査部会の報告は終わりました。

まず御質疑をいただきたいと思いますが、私のほうからちょっと基本的な事項を質問させていただきます。

これまでの実践の中で、国語の時と同じ質問ですけれども、八王子の先生方にとってはどのような書写の教科書が良いというような声、端的に言うとまとめられますか。

秋吉教科別調査部会（書写）副部長 八王子市立の学校の教員にとってどのような書写の教科書が使いやすいか、3点ほど挙げさせていただきたいと思います。

まず1点目ですが、教科書がそのままお手本として使える、そうしたものが良いかなというふうに思います。

2点目に姿勢。鉛筆や筆の持ち方など、基本的なことをぱっと開いて指導できる、そんなものが良いのかなというふうに思います。

3点目としては、とめ、跳ね、はらいを意識できる表記となっているものが

良いと思います。

安間教育長 ありがとうございます。

もう1つ、アンケートもひっくるめてなのですけども、これまで学校で色々な保護者の声を聞いていると思いますけれども、保護者のほうはどんな、この書写に関して聞いているものがあったら紹介してください。

秋吉教科別調査部会（書写）副部長 200枚を超えるアンケートの中で、書写に関してということではいいかと、書写の教科書の内容が日常生活と一番関わりがあるのは鉛筆ではないでしょうか。鉛筆の持ち方を全学年で扱っている教科書を採用してほしい、そんな御意見がありました。とりわけ子どもたちの目につく、裏表紙に記述があるものは鉛筆の持ち方に注意を払うためには効果的だろうということでした。

安間教育長 ありがとうございます。

国語と同様にこれもちょっと確認しておきたいのですが、書写も学習指導要領の内容は、1、2年、3、4年、5、6年になっていますよね。当然、この書写についても採択替えをした場合に不都合はないと考えてよろしゅうございますか。

秋吉教科別調査部会（書写）副部長 新しく採用したものが良いと思います。

安間教育長 全てでということですね。分かりました。

最後に、先ほどちらっとおっしゃられたけれども、書初めをお正月とか学校でよくやりますよね。その時に書写の教科書の見本を使っていらっしゃるのですか。何か、一部には別に紙と一緒に見本を購入しているというような話も聞いたのですけれども、保護者の教材費の負担というのを考えた時には、私は教科書に書いてある見本でやっていったほうが負担が少なくて良いのではないかなど。そうなった場合に例えば不都合とか、学校に生じるのでしょうか。

秋吉教科別調査部会（書写）副部長 そうですね、私の経験上は、お手本を他のところから取り寄せていることが多いように思います。ただ、それぞれの教科書発行者が教科書のほうにしっかりと大きなものを用意しているところもありますので、そのあたりは用意するものが少なくて良いかなというふうに思います。

安間教育長 分かりました。

最後になりますけれども、先ほどの保護者負担のという点からちょっと学校のほうでも指導法についてぜひ研究をしてください。

それでは、私のほうからは以上ですので、他の委員から御質問等ありますか。

伊東委員 詳細な御説明ありがとうございました。

ちょっと私のほうから1点質問させていただきますけれども、学習指導要領には書写のことにに関して、毛筆を使用する書写の指導は第3学年以上の各学年で行い、「各学年、年間30単位時間程度配当する」というふうに書いてあるのですけれども、どの社も結構薄いんですよね、書写の教科書の厚み。この30時間範囲程度の内容にそれぞれがなっているのかどうかとか、十分、30時間が使えるのかどうなのか、そのあたりについてはいかがでしょうか。

秋吉教科別調査部会（書写）副部長 各社とも検討を尽くした教科書でありまして、30時間に耐え得るものにはなっています。各社の教科書とも扱いに軽重をつけることができるように工夫されているのだらうと思うのです。教師の裁量によって児童の実態に応じて指導ができる設定となっているかなというふうに思います。

安間教育長 ありがとうございました。他にございましょうか。

村松委員 若手の教員の皆様が書写、書道を苦手に行っている方もいると思うのですけれども、私は分からないのですけれども、教員の皆様が教科書を使って研修をされると思うのですけれども、そういう研修みたいなものがあったりとか、あとは、どういう教科書が若手には有効なのか。それともう一つ、お子さんの中では最近左ききが多いので、左ききのお子さんにはどういう書写の指導をされているのかちょっと教えていただければと思います。

秋吉教科別調査部会（書写）副部長 研修ということになると、学校のほうではやはりベテランの先生を中心にOJTのような形で若手をというようなことになってくるかなというふうに思います。それと、やっぱり自分でインターネットとか、とにかく色々活用してやりやすい時代になったかなというふうに思っております。

そうですね、教科書として若手がどういう教科書が使いやすいかなというこ

とですけれども、指導事項をしっかり落とさずに学ぶことができる教科書が使いやすいということで、教科書通りに進めるだけで指導ができる教科書って当たり前のことなのかもしれませんが、それがやはり若手の教員には求められるところかなというふうに思います。ベテランにとっても使いやすいと思います。

そして、左ききの子どもというようなお話があったと思うのですが、以前は無理やり右ききで書かせているような時代もありましたけれども、最近では、左ききの子は左ききで進めている学校が多いのではないかなというふうに思っています。ほぼ100%そうだと思います。左ききだと肘やら肩の関節の可動域がやっぱり右ききと違いますので、字は右上がりを書くというのが基本になっていますから、例えばなのですけれども、ちょっと半紙を傾けて書かせることで、右上がりにさせるということができたり、あるいはお手本を右ききのほうと逆に置かせて、抱きかかえるような形で筆を左に持って書くというような形をとって、左ききの子どもにも指導をしている、そんな現状があります。よろしいでしょうか。

安間教育長 他にございましょうか。

笠原委員 1点目は、キャラクターが出てくる教科書とそうでないものがあるのですけれども、そういうものがあることで、例えば利便性とかが増すのかどうか、そういうことがある、なし、キャラクターのいる、いないは先生方にとってはあんまり関係ないことなのか、ちょっと子ども側と先生側とのキャラクターの価値の有無を教えていただければと思うことが1つ。

それからもう1つですけれども、書写となると実践が伴うので、机の大きさと子どもたちが書くスペースというのが必要になると思うのですけれども、例えば広げてその場で教科書そのものに書き込みができればそこで済んでしまうのでしょうか。ノートというのは使われるものなのでしょうか。教えてください。

秋吉教科別調査部会（書写）副部長 キャラクターに関してなのですけれども、キャラクターが登場していることで次はどうなるのだろうという気持ちで学習が進み、主体的な学びにつながりやすいということは言えるのかなというふう

に思います。そして、キャラクターをきっかけにして対話につなげる可能性も出てくるかな。ただ、一方で教科書1ページの情報量が多くなりがちになってしまい、キャラクターにこだわってしまう子どもがいるとすると本題から離れてしまうということもありまして、やはりそこは八王子の児童の実態ということ踏まえて、どちらということになってくるところかなと思いました。

ノートを使っているかどうかということですが、別に、ノートの形で書き込みをすることができる教材が売っているということもありまして、それを使われている学校が多いのではないかなというふうに思います。ですから、教科書に書き込むところがある教科書もあるのですけれども、それだけではなくて、ワークみたいな形のノートを使っているという実態があるかなというふうに思います。

安間教育長 ありがとうございます。

柴田委員 書写の教科書を拝見していますと、5、6年生になると丁寧に正しく書くということだけではなくて、速く書くというような練習であるとか、それから中学校での内容に続くような、例えば、古文の理解が深まるようなものであるとか、そういうものが見受けられますけれども、中学校での書写の評価と接続する上で大切な点ということについて教えていただければと思います。

秋吉教科別調査部会（書写）副部長 古典にふれるということが、まずやっぱり大事なのだろうと、それは書写だけじゃなくて、今、先ほど外所部長からもありましたけれども、国語にも関わっていくことだと思います。色々な場面でそういったところにふれていくことで、小、中の教育課程の接続を円滑にしていって、そんなところの一翼を書写のほうで担っている、そんなことで進めている実態があるかなというふうに思います。

安間教育長 ありがとうございます。御質疑はよろしゅうございますか。

それでは、それぞれ御意見いただきたいと思います。現時点での御意見で結構でございます。いかがでしょうか。

村松委員 ありがとうございました。

書写の教科書を拝見させていただいて、子どもたちが楽しく、書写、書道ができるのではないかなというふうには思っておりますけれども、以前は、書道

教室等色々看板が出て、通うお子さんとかが結構あったのですけれども、なかなか最近見かけないなというふうに思っています。お正月の書初めとか、年賀状、または御祝儀袋とか、書く機会が減少されていってしまっているというので、日本の伝統とか文化を理解する上で、鉛筆の持ち方から始まって、また筆の持ち方、机に向かう姿勢、これが実生活で生かす視点から見ても書写が大変重要な科目だというふうに考えております。

子どもたち一人ひとりが教科書で書写の学ぶ楽しさと意欲をもってもらえるように、そんな工夫をしている教科書というのを私のほうは重点的に見て検討していきたいなと思っております。

以上です。

安間教育長 御意見をありがとうございました。他にございますか。

柴田委員 書写の教科書もですけれども、社会に開かれた教育課程ということで、生活実践に即役立つ内容というものを重視しているということや、それから毛筆の時間などは心を落ちつけて、姿勢を正して、自分を静観しながら書に取り組むというような、そういう環境づくりということも必要だと思っております。

それから、先ほど質問をしましたように、中学校との教育課程との接続ということも重視したいと思っています。

安間教育長 ありがとうございます。他に。

笠原委員 書写の教科書は、書写という授業が、そもそも、とても実践的なものであり、身につけるものであるという観点からも、まず使いやすさ、それからやはり、先ほども申し上げましたけれども、本当に心を落ちつかせてというようなところも恐らく大事になってくるのかなと思っております。

安間教育長 ありがとうございます。では、伊東委員。

伊東委員 皆様方の意見と重複してしまいますけれども、やはり読み、書きというように、書くということは学びの基本部分、なので、子どもたちが日常生活の関わりの中で生きて働くための重要な力になると思いますので、何といたっても書写の時間というのは、子どもたちが楽しく学べるような教科書を選んでいきたい。それが、国語とセットというものではなくて、やっぱり書写、独立して、やはり、すごく楽しい学び、楽しくなるような教科書をぜひ選んでいき

いというふうに思います。

安間教育長 ありがとうございます。

協議は尽きたようでございますので、本日の協議をもとにお考えをいただいて、次の種目に移りたいと思います。

安間教育長 それでは、次の種目に移りたいと思います。

それでは、社会科について、調査部会からの御報告をお願いいたします。

宇都宮教科別調査部会（社会）部長 それでは、社会科について説明させていただきます。

初めに、子どもたちの実態を簡単に説明いたします。

学力調査の市の傾向、また小教研などの実践から言えることですが、もちろん知識や技能などの資質能力の育成もこれは必要なことですが、より思考、判断、表現、また主体的に学びに向かう態度というところを重視していかなばならないだろうと考えています。その観点から考えると、教科書において多面的、多角的な資料提示があること。また、問題解決的な構成となっていること。それから、より身近で具体的な教材が示されていたり、学習の方法や学習計画が身につくことが大切かと思えます。そのような観点から資料のほうを作成させていただきました。

それでは、お手元の調査の報告をもとに説明させていただきます。

まず、東京書籍です。内容についてです。全ての単元で使う、調べ活動の学習過程が明示してあります。まとめる段階に続いては、生かすとか広げるという発展的な段階も準備されています。単元ごとに学習問題があり、学習をまとめる段階では学習問題を振り返りながら学んだことをまとめる形式をとっています。重要語句は「言葉」というコラムに整理してあります。「地形」とか「大和朝廷」などの重要語句を全て説明を加える形でコラムのようになっています。まとめる場面で多く使われており、これは知識の整理に役立つと思います。

ドラえもののキャラクターは子どもたちにとって親しみやすいものです。その一方で、キャラクターがあらわす社会的な見方、考え方、例えば広がりとか

時間というふうには示されていますが、その説明はあるものの、それぞれのキャラクターがどのような意味を持っているかということについてはやや読み取りにくい部分があると感じました。見方、考え方に関わるキャラクターの説明は、例えば3、4年生版だと巻頭の18ページ目にあるよというふうには示されています。6年だと政治学習の12ページ目にあるよと書いてあるんですけども、これは巻頭にあると、より使いやすかったかなと考えています。

2番の構成上の工夫についてです。問題解決的な構成は明確に示されています。学習計画を立てるというページもあります。学習計画まで明示してあるのは、主体的な学習の実現に効果があると考えています。学習のまとめ方がさまざまに明示されていることも良いことだと思います。白地図で整理したり、話し合っ整理したり、パワーポイントを使って発表し合う例もありました。まとめ方のノウハウが蓄積していったって増えていくこと、良いことだと思います。先ほども思いましたが、学習の進め方や社会的な見方、考え方の説明が巻頭にあると、より使いやすかったかなと思っています。

3番目、ユニバーサルデザインに関する配慮ですけども、これについては、各社それぞれにユニバーサルデザインフォントを採用していたり、色彩に気をつけたり、図表を大きくしているなどの工夫が見られます。3社ともに読み取りやすさには配慮が感じられると思っています。見やすさについてですが、東京書籍のフォントは明朝体とゴシック体をベースにしているように感じました。振り仮名が東京書籍が一番大きくて、これは読みやすくありがたいなと思いました。

4番、使用上の便宜です。毎時間のめあてが、問いを投げかけたり、こんな活動をしてみようよという活動の例示となっていたりしています。これは使いやすいと思います。家庭学習という観点もありましたが、特に広げる、発展的な段階において選択する単元もあって、これは児童の家庭学習として活用できるなと思いました。4年生の発展学習でマイタイムラインを作ってみようみたいなのもあって、なるほどなと思いながら読んでみました。地域性についてですが、北嶋綾など大田区の中小工場の技術力の高さにもふれております。

その他ですが、5、6年が東京書籍は分冊となっています。他の2社は合冊

となっているんですが、分冊化したことで1冊、1冊が軽くなったという点ではこれははっきりメリットがあると思います。ただ、逆に言うと、社会科では前のあの学習を振り返ってみようよということが多いため、それがやりにくいというデメリットが発生します。これはメリット、デメリット相互にあるので難しいところになると思います。合冊になっている、例えば4年生でいうと、重さだけの話だと教育出版の427グラム、東京書籍と日本文教出版が約360グラムということで、重さだけでいうと教育出版が一番重く、一番厚いということになるわけです。

次に、教育出版についてです。まず、内容についてです。つかむ、調べるなどと教科書に学習過程が書いてあるわけではありませんが、これも問題解決的学習に沿って編さんしていることはすぐ読み取れます。まとめに続いて発展的な広がる、つなげるという段階もあります。單元ごとの学習問題がしっかり書かれていて、学習問題を振り返りながら学んだことをまとめるという形式をとっています。重要語句については、「キーワード」という形でページの両方側に示しています。キーワード、ここでは説明を加えず、本文の中から読み取るという形式が多いです。これは教科書によって書き振りが色々違うのですね。コラムに全部説明する教科書もあればキーワードだけを示して教科書本文から読み取る場所もあります。ページ数が最も多いことから提示される資料も充実しているとも言えます。教育出版は、社会科の見方、考え方の説明が巻頭に位置づけられていて、これは読み取りやすいと思いました。

構成上の工夫です。各単元に学習問題、学習計画を立てるページがあること、これは良いことです。巻頭に前の学年を振り返ろうとか、社会科の見方、考え方を説明するページがあり、八王子市の若い教員にとっては活用しやすいだろうと思います。見開きで、この時間の問い、それから次の時間につなげようというふうを示しておりまして、基本は見開きで1時間扱いとなっております。これは教師が授業を構想するのに役立つと思います。

ユニバーサルデザインについてです。先ほど申しましたように、これについては3社ともに配慮が感じられます。フォントについては教育出版のフォント、やや丸みを帯びていて、読み取りやすさについては、これは3社とも問題ない

と思います。

4番目、使用上の便宜です。問題解決的な学習が示されていること、それから毎時間での学習の過程が分かりやすいことで、活用しやすいだろうと思います。

家庭学習についてですけれども、ところどころ学びの手引きというようなものがあります。こんなふうに学習するんですよというコーナーがあったりします。6年生ですと68とか69ページですが、これは児童が家庭学習に使う時に活用できると思います。

地域性についてですけれども、6年生で八王子の租税教室の様子が取り上げられており、これについては市民アンケートでも書かれておりました。

その他です。先ほど申しましたように合冊ですので、1冊当たりの重量面では重くなるというデメリットがあります。このぐらいの厚さ、皆様持ってらっしゃいますので、デメリットがありますが、逆に言うと、歴史をしながら政治単元どうだったっけなどと、そういったような振り返るような学習はしやすいだろうと思っております。

最後に、日本文教出版についてです。この教科書についても、つかむ、調べるという学習過程は教科書にはありませんが、学習問題が明示されるなど、問題解決的学習に沿って編さんされています。授業方法はキーワードとして、その場で説明を加えるタイプです。

日本文教出版の特徴的なことで、巻頭に何年生の社会科で大切なことという、いわば巻頭があります。これは経験年数の短い教員には参考になるでしょうし、市民アンケートでも肯定的に評価している方が1名いました。学び方、調べ方講座などが具体的で、指導に活用しやすいという教員の声もありました。関係、空間、時間など、社会科の見方、考え方にも触れられています。

構成上の工夫です。学習問題を例示してあるのは当然のことなんですが、各時間ごとに取り上げる問いを紙面の両端の柱に明記してあります。

特徴的なのはまとめる段階です。学習問題について話し合う様子を各單元ごとに図示していて、恐らく、これは対話的な学びを促進することを意識されているのだと思います。また、児童のノートも例示している場面が多く、ノート

指導にも活用できるかと思えます。

ユニバーサルデザインに関する表記です。3社ともに読みやすさには十分な配慮が感じられました。

4番、使用上の明示です。毎時間のめあては問いの形で示されていて、使いやすいと思えます。家庭学習については、私たちの学びを生かそうというコーナーで、児童が自主的に学習することを想定して紙面編集が行われています。各学年に私たちの学びを生かそうというコーナーがありました。

地域性についてですけれども、日本文教出版は東京都の事例も多いのですが、関西の事例がやや中心になっている感じがあります、関西系が多かったです。

その他のところでは、文教出版も合冊をとっていますので、1冊当たりは重くなるというデメリットがありますが、相互に参照できるというメリットはあります。

以上で教科書の各発行者結果について説明は終わらせていただき、最後に市民アンケートですけれども、一番多かったのは憲法や平和について十分説明しているかという内容が多かったように思いますが、これは3社とも指導要領に沿って十分に説明されていると感じました。教科書の重さについて書いてあるアンケートの数は少なかったんですが、ありました。ここが、ちょっと悩ましいところです。合冊、分冊に分かれておりますので、1つ検討のポイントかなと思えます。

以上で説明を終わります。

安間教育長 かなり詳細に御説明いただいてありがとうございました。

私のほうから感じた2点だけ、八王子の先生方、どんな教科書が社会科については良いだろうというふうにお考えなのか、把握していたらお聞かせください。

宇都宮教科別調査部会（社会）部長 単元の学習問題や単元ごとの問いが例示されていること、それからどんな学習活動をどうすれば良いのかという例示が具体的であること、若い教員にとっては例示が具体的であるほど使いやすいと考えます。

以上です。

安間教育長 アンケートも含めてで結構でございますけれども、日常の学校公開等で保護者から、社会科の教科書について何かお声を聞いているようなこと、ございますか。

宇都宮教科別調査部会（社会）部長 社会科については、教員によって授業のあり方が違うねという厳しい御意見をいただくことがあります。説明型の学習になりがちな場合もありますし、本来の問題解決的な学習になることもあると思います。これは教科書をというよりも、教員の研修のあり方とかが大事になると考えます。

以上です。

安間教育長 それでは、各委員の方々から御質疑をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

村松委員 大変詳細な御説明、ありがとうございました。

私、また後で意見として述べさせていただきますけれども、私は児童が家庭に持ち帰って、また家庭学習として活用できる。そういうものが大事だと考えるのですが、先ほどのマイタイムラインですか、のお話のように、家庭学習で使いやすい教科書とはどのような教科書かというのを、もう一度教えていただきたいのと、本市では副読本で「わたしたちのまち」を作成して配付しましたけれども、その教科書とどのように併用するのか、2点教えていただきたいと思います。

宇都宮教科別調査部会（社会）部長 まず1点目、家庭学習ですけれども、これは問いが明確であると、何をすれば良いのかということが明確であることと、それをどのようにすれば良いのかという、その両方が明確でないといけません。算数みたいに掛け算をやってらっしゃいというふうにはシンプルにいかないのです。その問いと活動が明確であることが大事だと考えます。これが1点目です。

2点目、社会科副読本「わたしたちのまち」との関わりでした。これは3、4年生では主に副読本を使用します。教科書は、こんな学習活動もあるよとか、資料集的に活用することもあります。

以上です。

安間教育長 ありがとうございます。

他にございましょうか。

笠原委員 社会の学習、本当に多岐にわたる分野だと思imasるので、より子どもたちが使いやすい物とは思いますが、資料ですとかグラフなども読み取らなければいけない科目だと思imasのですが、そのあたりの各教科書における使いやすさは。

宇都宮教科別調査部会（社会）部長 教科書が厚くなって大きくなったことは確かに重いのですが、逆に言うと資料については大変見やすくなりました。色彩などについても、とてもよく配慮されていると感じます。

また、どの教科書もそうなんですけど、全ての資料にア、イ、ウとか1、2、3とか番号が振ってあります。これは、この資料というふうに指示しやすく、ありがたく思っています。

以上です。

柴田委員 御説明ありがとうございました。

教科書のアンケートをしてみると、保護者の方から、最近教科書が重くて、子どもの腰痛などが心配だという御意見が多数見られました。一番重い教科書でも40、50グラムくらい違うというふうなことが分かりました。

ただ、社会の場合、歴史なんかは通史的に全体像を把握している例えば各時代を勉強して通史的な観点も必要なので合冊の物も捨てがたい、必要なのではないかという御意見、先ほどいただいたのですが、教科書が重いということ資料なのですが、例えば学校で資料は教室に置いたままで良いとか、何かそういう工夫というのはなされているのでしょうか。

宇都宮教科別調査部会（社会）部長 資料を学校に置くなどの工夫をしているところもあります。

また、教科書自体も必要に応じて、あまり重いようだと学校に置いたりすることもあります。

安間教育長 他にございましょうか。

伊東委員 御説明ありがとうございました。

調査項目の中に主体、対話的で深い学びに配慮しているかという項目があるのですが、そもそも主体的、対応的で深い学びって、特に小学校なんか

は十分、これまでの授業の中で展開されているということで、改めて新しい教科書の中で、これを絶対意識する必要はないのではないかなという思いはあるんですが、社会科において、この主体的、対話的で深い学びというものを教科書の中に位置づけれるとしたら、色々御説明あったんですけど、主体的で対話的で深い学びに関わる授業改善に結びつくような教科書というのは、どういうものか、具体的にお伺いしたいと思います。

宇都宮教科別調査部会（社会）部長　　まず多面的な考え方、多様な考え方をする必要がありますから、それに必要な資料が示されていて、その学習活動も例示されていることというのが1つあると思います。

それから児童のモチベーションを考えると、やはり身近な教材、子どもが興味関心をもちやすい、物理的な八王子だったり、あるいはとても興味が持ちやすいような題材が示されているということがあると思います。

もう1点、学習問題や各時間での問いがあまり安易に、ここに書いてあるよというふうにならない。細かいことですが、そういう配慮も必要だと思います。

以上です。

安間教育長　　ありがとうございます。

ほかに御質疑はないようでございますので、それでは教育委員同士で意見を交換したいというふうに思います。

御発言をお願いします。

笠原委員　　ありがとうございます。やはり、八王子市で生活している子どもたちにとっての情報ですから、そこから必要な考える力、ここで社会全般を見て学べるような力、特に先ほどニーズが多くて大変な部分があるのですけれども、副読本としての教材が活用されているということでしたので、その辺も検討しながら考えていきたいと思います。

安間教育長　　ありがとうございます。

伊東委員　　先ほど、調査部会の委員長の方から御説明のあったとおりだと思います。社会科というのは1単位時間で学びに完結するわけではなくて、単元、幾つかの縦貫のまとまりを構造的に追及して行って、そこで学びを完結していくというものですので、単元を貫く学習課題とか問題が設定されていて、子ども

たちの単元を学んでいく上での学習、課題を追及していくエネルギーを持続できるような問いがあるような、そういった構造の教科書が良いのではないかなというふうに思います。

安間教育長　ありがとうございます。

柴田委員　子どもたちが色々な素材を提供された上で、自分たちの考えをしっかりと組み立てられるような教科書という物が必要なのではないかというふうに考えています。

安間教育長　ありがとうございます。

村松委員　ありがとうございました。

子どもたちが将来の社会参画に向けて、社会の関わり方への判断、その力を育成できる教科書がもちろん望ましいのですけれども、保護者の立場としては、学校で学ぶことはもちろんですが、例えば、この教科書をもとにして世界情勢、または国内の自治の問題を親子で、また話し合ったり勉強して学べる、そんな教科書を検討材料として、私のほうは考えております。

以上です。

安間教育長　ありがとうございます。

今、村松委員から保護者の声を聞かせていただいたので、私もぜひ参考にしたいと思います。

それでは社会科に関する協議、これで終わりにさせていただきたいと思えます。

それでは、次の種目に移ります。地図について、調査部会から御報告をお願いします。

宇都宮教科別調査部会（社会）部長　まず、児童の実態、それから市民アンケートについてですけれども、これは基本的に社会科と同じでございますので、割愛いたします。

ただ、市民アンケートでは地図に関する記述自体が非常に少なかったもので、もしかしたら地図ということが3年生から新しく入っているのにも関わらず、保護者の方々への興味が十分高まっていないかなと感じました。

では、東京書籍と帝国書院、2つの地図について、それぞれ報告書に基づき

話させていただきます。

まず、東京書籍です。1ページあたりの情報量が多くて、調べ学習には活用しやすいと思っています。領土、領海などについての説明も分かりやすいです。一般的な地図帳のオリエンテーションや地図帳の使用方法については、導入によって地図帳の使い方に2ページ使っています。これは3年生からの導入ということで、両社ともに工夫しているところだと思います。

98ページの自然災害の情報はよく整理されていて、読み取りやすいと感じましたし、日本の歴史というページもあります。日本の歴史のページでは、世界との関わりについて地図で触れており、例えばモンゴル帝国の版図などが一目で分かるのは良いことだと思いました。世界遺産、史跡については、よく目立つように各ページで表記してあります。

1つ大きい比較点かと思いますが、東京に関わる地図、首都東京というページがあり、山手線の色を緑色であらわすという工夫などで見やすいです。八王子市の地図は、東京書籍は50万分の1でした。ちなみに帝国書院は20万分の1でございますので、大分、八王子市に関しては大きいサイズがあります。オリンピックについては、オリンピックとワールドカップを1つの図に85ページでまとめて整理してあります。3年生から地図の使用ということがあり、巻頭の絵地図は親しみやすい感じで始まっていて、これだけで1時間、十分子どもたちと楽しめそうだなと思ったところです。

2番の構成上の工夫です。子どもの目線を重視して、関心や意欲が広がるように工夫されていると思います。また、東京書籍は教科書と一体となった編集ができることが、これは強みだと思います。教科書のほうに地図帳の一部が使われています。索引の量は十分だと感じました。地球儀の指導のページが東京書籍には55ページ、56ページとあり、これは地球儀についての指導と関連させやすいなと感じましたし、南を上にした地図を載せてみるなどと、多面的な見方を促す工夫も感じられます。

ユニバーサルデザインについては、十分に両社とも配慮されていると感じました。距離をはかる目安として定規を模した図があって、実際にはかってみようみたいな問いがあって、それも良いことだと思います。

使用上の便宜ということですが、目次というのが6ページにあって、目的のページを比較的探しやすいと感じました。世界の行事を紹介するなどして、外国に興味をもちやすいような工夫もあります。キャラクターの吹き出しには体験を促すものが多くて、地図に親しみをもたせるのに有効だと感じました。

ページ数は東京書籍で102ページとなっています。これは重さに関しては帝国書院と東京書籍、あまり差がありませんが、紙質が違うのでページ数としてはちょっと違うという形になっています。

次に帝国書院です。ページ数に関しては帝国書院のほうが多い編集になっています。そのため1つひとつの図表が比較すると大きい場合が多く、3年生からの使用開始でも使いやすいかなと感じました。地図の約束を巻頭に整理してあって、3年生からの導入ということで、地図帳の使い方についてのオリエンテーションもあります。これは導入に8ページ、地図帳の使い方に4ページ、合計12ページを使っています。産業学習や世界に関するページが、比較すると充実していることも良いことだと思いました。自然災害のページもあります。6年の学習に対応して、世界の国々についても、それぞれきちんと押さえてあると感じました。全体に広く見渡す広域地図と詳細に見る詳しい地図、幾つかのパターンがあって、学年に応じて活用できると感じました。さっき申し上げた首都東京のページですが、区部全体が一覧できるようなところと八王子も見る東京都全域の地図、これが63ページにありますけれども、これが20万分の1なのが、ちょっと魅力を感じます。このサイズで東京都全体が見られる地図は、これまでなかったので、読みやすく感じました。

構成上の工夫です。地図の位置や形が把握しやすいように工夫されていて、使いやすい。主体的な学習につながると感じました。防災マップづくりというようなことが盛り込まれており、主体的な地図づくりというふうにつながれると思います。3年時からの導入に関わって、色々索引の引き方などは両社ともに工夫されていると感じました。地球儀についての指導は、これは世界地図との関わりで意識するような形になっていました。

ユニバーサルデザインに関しては、両社ともに十分に配慮されていると感じます。

4番、使用上の便宜についてです。地名の横に特産物が書いてあるのは、これは活用しやすいだろうと思いますし、部員から評判がよかったのは、地図マスターへの道という何でしょう、地図の下のほうに子どもたちが地図を上手に使えるようになるような、ちょっとゲーム的な要素があって、例えば、四国のところでは大きな橋を3つ見つけましょうというような問いが書いてあります。地図に親しみをもたせるのに有効だろうなと感じました。

その他として、全体が120ページとページ数としては帝国書院のほうが多いのですが、重さには、まず差がありません。ページ数が多いことから、沖縄の資料が豊富であることも良いと思っています。

以上で報告を終わります。

安間教育長 只今、調査部会の報告は終わりました。

それでは、地図について御質疑いただきたいと思いますが。

私のほうから、また同じ質問なのですけれども、八王子市の先生方にとっては、どんな地図が使いやすいとか、そんな御意見があったら紹介してください。

また保護者等で、そういう声もしあったんだとするならば、それをお聞かせください。

宇都宮教科別調査部会（社会）部長 地図については最初申し上げたように、保護者のほうから声が出てくることはあまりありません、残念なことだと思って、もっと興味を広げなくてはいけないなと思っています。アンケートでも、そういう声はありませんでした。

若手が使いやすいという観点ですけれども、3つあると思います。1つは興味を持たせ、親しませやすいこと。さっきの地図マスターへの道ではありませんが、絵地図やゲーム的な内容があると良いなと思うことです。

2点目、地図を使う技能を身につけやすいこと。索引の使い方とか地図帳自体の使い方などが指導しやすいこと。

3点目、地図を実際に作ってみる体験をさせること。それが若手に使いやすいというか、身につけてほしいような力でしょうか。

以上です。

安間教育長 質問は、どちらかという教科書のことではなくて、一般的にどん

な地図帳がというような質問だったんです。保護者のほうはないということでよろしゅうございますね、あまり学校でも話題にはのりませんか、保護者参観のようなその時に。

宇都宮教科別調査部会（社会）部長　私の学校ではあまりございませんが。

高橋教科別調査部会（社会）副部長　授業参観等で地図を使う場面もあります。

やはり教科の内容に保護者は目がいき、地図は複次的な扱いということが多いので、そこは、もっと地図を使う授業の面白さとか楽しさを伝えていく必要があると思います。

以上です。

安間教育長　ありがとうございました。

それでは、各委員の方々から御質疑があれば伺いたいと思います。いかがでしょうか。

伊東委員　御説明ありがとうございました。

地図は、いわゆる日常の、三次元の社会を二次元の平面に落とし込むということなので、子どもにとっては得意な子、好きな子は好きでしょうし、苦手な子は本当に苦手という、なかなか差がある、空間認識力の問題だと思うんですけども。

それで、なおかつ小学校3年生からということで、これからの小学校教育ですが、2社、地図帳の、そういったオリエンテーションの部分のお話を聞きましたけれども、先生方のほうとしては実際に3年生から地図帳を使うことになったわけですが、3年生の地図帳の学習で配慮する点というのはどういうことだというふうにお考えでしょうか。

宇都宮教科別調査部会（社会）部長　先ほど教育長より質問されたことと重なる回答になって申し訳ないのですが、まずは地図に親しませたいということです。それから実際に地図を作る技能を身につけさせたいということです。あとは地図、下手でも良いので実際に作って、子どもたちが自分なりに地図を作って、3年生でも作れますので、作ってみるという経験をもたせないと思っています。

以上です。

安間教育長 他にございましょうか。

笠原委員 3年生から6年生までが同じ地図帳、1つの物を使うということで、かなり発達段階が違うので、子どもたちはどんなことができるようになるのかなというところを教えていただきたいのですけれども、見やすさ、使いやすさという点で、何か色ですとか、例えば、本を開いた時に縦とか横とか、そういうふうな小さい子どもから6年生までの発達段階で学びが違う場合について。それからもう1つ、紙質が本当に4年間使える、好きな子はボロボロになっているのを見たことがありますので、大分さわった感じも違いますし、何か紙の特徴とか分かることがあれば教えていただきたいと思います。

宇都宮教科別調査部会（社会）部長 では、簡単な紙質のほうなのですけれども、帝国書院は明らかに1枚1枚が軽いですよね、なのでページ数が多いにも関わらず、重さ自体は帝国書院のほうが軽いということになっています。それは工夫なのかと思いますが、耐久性ということに関しては、もちろん、教科書会社それぞれに調べておられると思いますが、現状ではもつのかどうかは分かりません。

2点目、発達段階に応じてということですが、両者とも色々な吹き出しで投げかけがあったり、学習活動が書かれてあったりして、色々な工夫がされており、それは各学年で使えると思います。

ただ3年生の導入、1年間どう使うかということについては、これは私どもの研究がこれから必要になってくるころだと思いますけれども、少なくとも最初の何ページかは、わくわくと私は読みました。

以上です。

安間教育長 ありがとうございます。

他にございませんか。

柴田委員 地図帳を眺めていると、先ほど先生がおっしゃったように、世界の仕組みがこの中に閉じ込められている、わくわくするというような、そういう感覚で、ぜひ子どもたちも地図帳に触れてもらいたいなというふうに思いました。それで、地図を見る上で、空間的な認識とか位置的な認識というものを、特に小学校3年生、4年生の段階で子どもたちに身につけていただくために必要

な、特に必要な指導のポイントにつきまして、教えていただければと思います。
宇都宮教科別調査部会（社会）部長　　2つあります。1点目は、何といたっても子どもたち自身が自分の町を歩いて地図を作ることです。自分の体験に基づいて、私が3年のクラスを担当するときは、自分の家から学校までの道を地図に書いて御覧というところから始めます。体験を抽象化することが、やはり地図の要因だと思います。

2点目です、これは両社ともに工夫されています。例えば、東書さんのほうでは鳥観図が、まず小田原が出て、それから同じ絵を真上から見て、これは2枚比べるだけでもおもしろいのですけれども、それが地図になっていくというふうに、だんだん段階を追って示すことが分かりやすかろうと思います。これは両社ともにありました。

以上です。

安間教育長　　ありがとうございます。

村松委員　　この社会の授業の時に、子どもたちが毎時間、地図を持参するのでしょうか。

それと地図帳という物、調べる調べ学習ですとか、こういう物はどのぐらいの頻度で授業で行われているのか、ちょっと教えていただきたいのですが。

宇都宮教科別調査部会（社会）部長　　まず1点目です。社会科の授業は基本的には毎時間、地図帳は持っていらっしゃいというふうに指導している教員が多いと思います。

ただ地図帳の活用については、これは指導力、随分差があると思い、私たちが工夫していかなければならないところです。ベテランの教員であれば、地図帳1冊で1時間楽しく過ごせると思います。

二点目、地図帳を調べる活動はどのぐらいの頻度かということでした。4年生では東京都周辺、5、6年生では日本から世界への地図を活用とすることになります。その意味で、先ほどの東京都周辺の地図の縮尺というのは、1つ検討のポイントになってくると思います。3年生の地図帳の活用実施というのはほとんどありません。今後の研究になると思います。

以上です。

安間教育長 ありがとうございます。よろしゅうございますか。

それでは、教育委員のほうから意見交換をしたいと思います。いかがでしょうか。

伊東委員 色々皆様からお話ありましたけれども、地図を見るのが苦手な子と得意な子がいるのではないかと思いますし、地図帳を開くのは苦手だな、嫌い、分かりにくい、この地図が好きではないと、見てもよく分からないというような子どもも、大人にもいると思います。そういう子をできるだけ作らないようにするために、それこそ親しみやすく地図に触れられるような、そういう構成とか、特に3年生からということで、そういった導入を意識するような、発達段階の早い段階からうまく地図に出会わせることができるような、そういった構成の地図帳が良いのではないかなというふうに思っております。

安間教育長 ありがとうございます。他に御意見ございますか。

村松委員 ありがとうございました。

地図帳の使い方なんですけれども、うちはニュースがあった時に、これはどこなんだろうね何て言いながら地図を引っ張り出してきて、例えば、芸人さんがコロンビアとか漫才をするじゃないですか、そうするとコロンビアってどこなんだろう、地球儀、地図を持ってきて見る。この教科書に書いてありますが、例えばビルの高さですとか、世界中、日本中の山の高さですとか、色々な比較対象を見ながら、子どもと楽しみながら見ていく。これは学校の先生も創意工夫をしていただきながらやっていっていただければ、何かネガティブな話が出ていましたけれども、地図帳というのは楽しいのではないかなというふうに私は思います。

ですから、こういうのは暗記ですとか、そういうものではなくて、自然とみんな学んで覚えていく、そういう観点が重要なのではないかなというふうに思っていて、決めさせていただきたいと思います。

以上です。

安間教育長 ありがとうございます。

他に御意見ございますか。

笠原委員 本当に地図というのは自分の生活そのものに完全に関わってくる物だ

と思っています。今、村松委員がおっしゃったように、家庭になかなか世界地図を貼ってある家がないと思うのです。だけれど、も地図帳を子どもが持って帰ったら、お家に世界地図が1つやってくるわけで、そんなことを考えると、本当にみんなで見て使える物を視点に考えていきたいと思います。

安間教育長 ありがとうございます。

柴田委員 私は、子どもたちがより興味を引くような観点で見ていきたいと思っています。実際に自分たちの町を歩いて、子どもたちが身近な地域の地図を作る時に、位置的な感覚であるとか空間的な広がりや認識というものをしっかりと解説しているような教科書を精査していきたいなというふうに思っています。

安間教育長 ありがとうございます。よろしゅうございますか。

それでは、地図に関する協議のほうは終わりにさせていただきたいというふうに思います。

それでは、次の科目に移ります。算数について協議をしたいと思いますので、準備のほう、よろしくをお願いします。

安間教育長 では準備のほう、よろしゅうございましょうか。それでは算数について、調査部会から報告をお願いいたします。

小柳教科別調査部会（算数）部長 それでは、算数について説明させていただきます。

まず、八王子市の算数における児童の実態を説明いたします。毎年実施されています第6学年の全国学力、学習状況調査で、第5学年の児童生徒の学力向上を図るための調査では、平均正答率は市が大きいので地域差があると思いますが、全国、東京都のものよりも低いことが分かります。平成30年度の全国学力、学習状況調査のA問題、いわゆる基礎、基本を見る問題につきましては、東京都よりも5ポイント、全国よりも1.5ポイント低い結果でした。B問題、いわゆる活用に関する問題につきましては、東京より6ポイント、全国より1.5ポイント低い結果でした。基礎、基本の内容、活用に関する内容、どちらも東京都、全国よりも低い平均正答率となっています。

次に、各学校からのアンケートより回答が多かったものについて御報告いたします。教科書のサイズに関することが目立ちました。余白の大きさや書き込みのしやすさについては、ページ内のボリューム感も含めて、苦手な児童への配慮としてメリットに感じている意見が多数を占めました。分冊化、1冊化については、既習事項への振り返りのしやすさという肯定的な意見と、重さに関する否定的な意見の両方がありました。算数の楽しさの伝えやすさについて、授業の導入場面の扱いやすさだったり、主体的に問いをもたせたりすることへの配慮、日常に身近な課題の豊富さ、学んだことを生活に生かすという視点の配慮に対して、肯定的な意見がありました。

指導のしやすさということについて、ノート指導のさせ方、数直線等の思考のツールの書かせ方、習熟度に応じた練習問題、単元の既習事項が明確なことへの配慮に対して肯定的な意見がありました。

特に思考のツールについては、多様な書き方が示されているほうが苦手な児童が身につけやすいという意見もありました。

これから算数部会で作った報告書の説明をいたします。観点ごとに説明いたします。特に違いがある発行者については、詳しく説明いたします。それ以外については、資料のとおりとして省略させていただきます。

まず調査の観点、1の内容について御説明いたします。(1)(2)につきまして、いずれの発行者も配慮しております。(1)学習指導要領に示された「各学年の目標及び内容のおさえ方に対して配慮しているか」につきましては、目次において単元に関連する前の学習と後の学習について示しているところが、東京書籍と大日本図書の2社でございます。他4社は全て前の学習について示しております。

また、全ての発行者において、巻頭ページで1時間の利用モデルを示している中で、学校図書においては、その他に主体的、対話的で、深い学びについての学び方を示していること、算数で身に付けさせたい見方、考え方についてキャラクターを用いて示していることが特徴的であると言えます。主体的、対話的で深い学びという授業改善の視点から、教師にとって具体的にイメージしやすいものとなっていると考えます。

またキャラクターで見方、考え方を示すことは児童に親しみやすく、かつ記憶に残りやすいため、定着を促すことにつながると考えます。

またプログラミングに関しましては、全学年で扱っている物が2社、5、6年生で扱っている物が2社、5年生のみで扱っている物が2社とばらつきが見られます。

(2)「児童の発達段階に対して配慮しているか」につきましては、東京書籍においては入学したての1年生に合わせて最初の2単元を別冊とし、ノートの機能も兼ね備えたスタイルとしてあります。大日本図書においては高学年の教科書において、中学校での学習例を紹介しているページを設定しています。学校図書においては6年生の教科書に別冊として中学校の学習を紹介しています。中学校数学への興味関心を高め、中学校への円滑な接続のために有意義であると考えます。

次に、調査の観点2、構成上の工夫について御説明いたします。

(1)「主体的、対話的で、深い学びの実現に向けて配慮しているか」につきましては、どの発行者も学習の仕方やノート指導について配慮しています。対話的な学びに関しては、東京書籍においては対話的な活動例を多く掲載しています。大日本図書においては、対話的な活動例として「話型」を掲載しています。学校図書においては、本文内で主体的に取り組ませる箇所、対話的な活動を載せる箇所が明示されています。主体的、対話的で深い学びを促すことにつながっていると考えます。

(2)「各領域の分量について、児童の発達段階を十分に配慮しているか」につきましては、各社計算の練習問題において大事な問題に色をつけたり、補充の問題のページが設定してあったりするなど、児童の能力に応じて扱いができるような配慮をしています。

また、学習すべき事柄について適当な問題数が配置してあります。

次に調査の観点3、「ユニバーサルデザインに関する配慮をしているか」について御説明いたします。(1)(2)につきましては、いずれの発行者も配慮しております。(1)児童にとって読みやすい表現であるかにつきましては、読みやすい字体、大きさ、表記、色覚特性以外にも、学校図書においては教科

書のサイズが大きいため、復学部分が適度にあり、すっきりして読みやすいと
考えます。

(2)「印刷、写真、挿絵、図形等が見やすく、分かりやすいか」につきましては、色分けまで配慮してある発行者がほとんどでした。中でも東京書籍と
学校図書、啓林館においては、グラフについては色だけでなく、線の種類も変
えるなど配慮してあり、見やすいと考えます。

また啓林館においては、グラフを書き込むページを全て右ページに配置する
という配慮がしてあります。

次に調査の観点4、使用上の便宜について御説明いたします。

(1)教員にとって使いやすくするための配慮がされているかにつきましては
は、全ての発行者において授業の流れが分かるように配慮しております。教育
出版と大日本図書においては、巻末に既習事項が掲載されており、既習事項を
活用する力を育てることにつながると考えます。学校図書と日本文教出版、東
京書籍においては、大切な考えのところにキャラクターで明示したり、吹き出
して示してあったり、まとめの文章中に下線を引いたりするなど、教材研究を
する際のポイントになる配慮だと考えます。

(2)児童が家庭学習を行う際の配慮がされているかにつきましては、全て
の発行者において単元末や巻末に補充問題やチャレンジ問題が設けられていた
り、既習事項との関連が示されていたり、デジタルコンテンツを活用できるよ
うにしたりという配慮がしてあります。

(3)地域に対して配慮しているかにつきましては、特徴的な点は見受けら
れませんでした。

最後に調査の観点5、その他について御説明いたします。これにつきましては
は、分冊化、1冊化という点と大きさについての資料のとおりのお報告をさせ
ていただきます。

以上で算数部会の説明を終わりにいたします。

安間教育長 只今説明は終わりました。

それでは、まずは御質疑いただきたいと思いますが、他の教科と同様なんで
すけれども、算数に関しては頻繁に比べる、また授業公開だとか研究、いっぱ

いされているのではないかと思います、八王子の先生方、どんな算数の教科書が良いとか、そういうふうな声があったら御紹介をください。

小柳教科別調査部会（算数）部長 全国学力調査より、児童生徒の学力向上を図るための調査における児童の学力面の実態は先ほどお話ししたとおり、東京都及び全国の平均正答率より低い結果が出ています。算数が苦手な児童の学ぶ意欲を高め、問題を解決する方法が確実に身につく物、また教科書を開くことに抵抗感が少ない物、算数が得意な児童に対応できるような補充問題、発展問題がある物が良いと考えます。

また、若い教職員が多いという年代層の実態を考えると、新学習指導要領の算数科が目指すものが教材提供することで自然と身につくようになる物が良いかなと考えます。

安間教育長 ありがとうございます。

また、授業公開等で算数の授業を御覧になられた保護者の方もいらっしゃるのではないかな、そういったところで算数の教科書はこんな物が良いとか、こういうところがというような保護者の意見というのはお聞きになったことがあったら、御紹介ください。

小柳教科別調査部会（算数）部長 保護者からは難しくない物が良いという意見は出ています。より親しみやすく、算数が大好きな子どもに育ててほしいなどという願いを、よく聞いております。

安間教育長 ありがとうございます。

最後に、分冊の話が出たんですけど、他の教科の中で分冊にする長短とありますが、この算数に関してはどうですか、上下分冊になっていることについて。

小柳教科別調査部会（算数）部長 算数においては、分冊のほうが使いやすいと考えます。現在八王子で使用している教科書は6年以外分冊ですが、それに対する教員からの不満は聞いたことはないです。1冊にすることで、授業の振り返りが容易になったり、管理が楽になったりという声もあるのですが、各発行者ともに巻末に、そういう既習事項に配慮した取組が設けられていることを考えると、家庭学習で持ち帰ることが多い、毎日持ち帰ることが多い教科書である算数としましては、やはり分冊のほうが子どもの重さに対する負担は少ない

など考えています。

安間教育長 分かりました。参考にさせていただきます。

ほかに委員の方から何か御質疑はございませんか。

笠原委員 算数の教科書も色々工夫がなされているなというふうに改めて感じております。巻末に付録がついている物が多いのですけれども、実際に、それは使われるものなのでしょうか。

それから、例えば、ちぎり取って使うような物もあると思うのですが、そうするとばらばらになってしまった物はどうやって保管されているのかとか、具体的なことを教えてください。

小柳教科別調査部会（算数）部長 巻末の付録については、実際に活用する教員が多いと思います。教員側の工夫としましては、切り取ったそれぞれの物については封筒を各自持たせて、そこに入れさせて管理する。つまり1枚1枚名前を書くということをしなが、封筒を持たせて封筒に入れてお道具箱にしまっ使用と、そういうふうな活用をしております。

安間教育長 ありがとうございます。

他に御質疑ございませんか。

伊東委員 新しい学習指導要領に、目標のところこんなことが書いてあるので。「数学的な見方、考え方ははたらかせ、数学的活動を通して数学的に考える資質、能力を身につけていく」難しい表現なんですけれども、数学的な見方や考え方ははたらかせということに関して学校現場で、こういった取り扱いについてどういうふうにやっていくのかということと、それから数学的活動ということも言われていますが、このあたりについては教科書を選ぶ前提として、学校ごとにどういうふうに捉えているのか、ちょっと教えてください。

小柳教科別調査部会（算数）部長 数学的考え方、見方、考え方については、残念ながら現在は教員が授業で意識できている状況ではないと言えます。学校では、どうしても問題の解き方や公式を教える授業になってしまいがちなところがあることは否めないです。知識を身につけることも大切なんですが、やはり、算数としては今後、数学的な見方、考え方ははたらかせる指導が求められるというふうに思いますので、教科書としては、児童が自然と数学的な見方、考え

方を意識できるように、随所に色々な考え方が身につけることが望ましいと考えています。

数学的な活動については、これまで問題解決の流れのようなことを意識して大切にしてきたんですが、新学習指導要領では問題解決の流れの他に問題を見出す、児童が問題を発見するというふうなことを重視されています。教科書としては単元の導入部分に、そういう問題発展を促す場面があると望ましいというふうに考えております。

安間教育長　ありがとうございます。

ある意味衝撃的なお話しをお伺いしましたので、これは教科書の問題とは別に指導課のほうで、ぜひ取組を行ってください。

他にございましょうか。

村松委員　私は、学校訪問や公開授業に参加させていただいて、授業を拝見しているんですが、その中で若手の教員、少人数の授業もそうなんですけれども、この先生すばらしいなという授業がある中で、あれと思うこともあり、やはり算数は教員に頑張ってもらいたいというのがあるんですけれども、若手教員、ベテラン教員、教科書が使いやすい物、授業をしていて、こういうことが必要なんだとか、要望ですとか、本当に必要な物、何かお考えがあったらお聞かせ願いたいんですが。

小柳教科別調査部会（算数）部長　若手教員は、やはり先ほど話をしたように、教え込みがちな指導をしてしまうところがあります。それを考えると、問題解決学習の流れ、学習の進め方が明確に示してある物、それプラス、そこで子どもたちがどんな思考をすることが、その流れが成功なのかという、児童の思考がはっきり意識できるような教科書が良いのかなというふうに思っています。

また主体的、対話的で深い学びということが言われていると思いますが、そういう物や、そのやり方というのは何かとか、それをはたらかせるのはどういうことなのかということが、教材研究をする時に自然と身につくという、そういうことが明示している物が若手教員にとって、もしくは算数をあまり得意としていない教員にとって、有効だろうなというふうに考えております。

安間教育長　他にございましょうか。

柴田委員 算数の教科書ですけれども、多くの児童が算数に興味を持って授業に臨んでいくために必要な観点としまして、先ほど御説明いただきましたように、教員が教え込むのではなくて、例えば、公式を教えて、そのまま解かせるというのではなくて、どうして、そういうふうなものが導き出され出ることなのかということ、何をさまざまな観点から子どもたちに考えさせて、本当の意味で腑に落ちて、こういうふうな解き方があるんだということを実感させながらというところで、学年が上がっていくと、それが公式になって、こういうふうな仕組みがあるのだというふうにつながるというか、そういう学年を経て、また中学校と接続をして、子どもたちの算数の能力を深めていくために必要な観点と申しますか、そのために必要な教科書の、先生方が使いやすい教科書という物について、さらに教えていただければと思います。

小柳教科別調査部会（算数）部長 子どもたちが納得感を得ながら学んでいくことについては、やはり低学年のうちから系統立てた指導をする必要があると考えます。

そういう意味でいうと、例えば、子どもたちが学力面で苦手になっていることは、演算決定をする力、これがどういう式になるのか、掛け算なのか割り算なのか、どちらが先の数なのか、そういうことをとても苦手になっている実態が、高学年になると明らかになってきます。低学年のうちからブロック、テープ図と数直線、割合を示す数直線図というように、きちんと系統立てた、その思考のツールが用意されている物が望ましいと考えます。

その中でも各発行者配慮はしてあるんですが、数直線をもとに考えさせるというようなものだけではなくて、数直線で納得できない苦手なお子さんが納得できるほかのツールも用意してある教科書発行者もごさいます。そういう物については、教員のほうも別の方法で授業がしやすいし、児童にとっても使える思考ツールが増えるということにおいては、学年が上がっていても、中学校になっても苦手意識を軽減するのかなというふうを考えています。

安間教育長 ありがとうございます。

他にございましょうか。特に御質疑よろしゅうございましょうか。

それでは、教育委員で意見交換をしたいと思います。いかがでしょうか。

村松委員 ありがとうございます。

算数は、つまずくところをはっきりして、残念ながら分からないところが児童生徒の中で見受けられる。その中で算数は学年が上がるにつれて習熟度の差がつきますので、高学年は目移りせず、分かりやすく、見やすい教科書。また低学年は、何のために算数を学んで、算数では学ぶことがどんな実際の生活の中で役に立つのか、子どもたちが実感できるような、そんな教科書が良いと考えています。この教科書を4年間、5年間使ってきました、そういうことを精査しながら、新しい教科書を選んでいきたいなというふうに考えています。

以上です。

安間教育長 ありがとうございます。

他に委員の方から御意見ございますか。

笠原委員 今の御質疑の部分を伺いながら、本当に数学的なものの見方、考え方というのは本質的なことだと思うので、もちろん、それを子どもたちに教えるということの重要性、それから、それに気がついていくプロセスの発達、子どもたちの心が発達していくということ、本当に大きな成長を支えるものだと思います。

安間教育長 ありがとうございます。

他にございましょうか。

伊東委員 私は、実は算数、数学がすごく苦手で、そのことで将来の夢だとか、そういったものが結構制約されてしまったと思うのですが、算数、数学ができるということがとても大切なんだと、自分の夢や希望を実現する上で、算数、数学ってとても重要な教科だなというふうに思いますので、とにかく算数、数学嫌いにならない、そういう指導をしていただきたいと思いますし、それこそ算数の面白さとか、あるいは物事を論理的に見ていくという、そういった楽しさ、そういったものが見つけられるような、そういった教科であるべきなわけで、そういった教科の特性を支えることができるような教科書を、ぜひ選んでいきたいなというふうに思います。

安間教育長 ありがとうございます。

柴田委員 これまでの委員の皆様の発言と重なるところですけども、子どもた

ちが苦手意識をもたずに、主体的に算数の学びに取り組むことができるような工夫がなされている物、さまざまなツールで考え方を多角的に示しているような物、こういった物について見ていきたいというふうに思います。

安間教育長 ありがとうございます。

私の場合、算数に限らず午前中の協議を通じて、教科書発行会者の方が一生懸命良い教科書を作っても、やはりポイントになるのは教員の指導力なんだなということを改めて認識した次第です。今回、午前中の会議もそうだけれども、見させていただいて、ここまで懇切丁寧に作らないといけないのかな、仕掛けを先に子どもに見せちゃってるみたいで、何か私の感覚からすると、これはあまりにも丁寧過ぎちゃってとっていたんですが、認識を新たにしました。作る側の立場になったとしたら、そういうふうにやってあげないとできないとするならば、どんどんそういった形の教科書になっているんだから、ある意味教科書の形が変わってきたのも教員の指導力の問題ということに関わってくるのだなと思います。

そういう意味では、指導担当部長の役割は大変重要だなということを痛感した午前中でございました。しっかりと、このことについては時間をとって考えてまいりたいと思います。

会議時間も長くなりましたので、ここで暫時休憩をいたしたいと思います。

再開は12時40分といたしたいと思います。

それでは、ありがとうございました。

【午前11時39分休憩】

【午後12時40分再開】

安間教育長 それでは、休憩前に引き続き協議を再開いたします。

理科について協議いたします。調査部会から報告をお願いします。

高橋教科別調査部会（理科）部長 では本日、次の3点について報告いたします。

まず、八王子市の児童の理科に対する実態についてです。次に、教科書採択に関するアンケートから聞こえた声です。最後に、調査報告書から特に報告しておきたいことと補足説明です。この3点について御報告をいたします。

まず、八王子市の児童の理科に関する実態ですけれども、子どもたちの自然

事象に対する興味関心は高いものがあります。これは調査部会でも、特に実験、観察が好きという児童が多いという声が多数を占めていました。

一方で思考力、判断力、表現力の部分、これに苦手意識が高いという報告もありました。また、科学的な言葉や概念を理解させ、定着させる難しさという声もありました。これは学力調査の結果からも見られることでした。

例えば、昨年度実施された6年生の全国学力、学習状況調査では、5年生で学習する流れる水の働きにおいて、堆積する、侵食するという言葉の理解が定着していないことが分かりました。また4年生、電気の働きについての設問では、予想を確かめる実験を構想する力、実験結果を考察し、より妥当な考えを作り出すという場面で課題が見られています。また記述式の問題では未回答率が高く、都や全国に比べて低い傾向にありました。このことから、問題解決的な学習の中で思考力、判断力、表現力を向上させていく必要性を感じています。

次に、アンケートからの声です。教科書の大きさ、重さについて否定的な声が多くありました。このことについては各発行者とも教科書を作成する上で大分意識しているようですが、以前の教科書に比べて、やはり大きさ、厚さ、重さが増してきている傾向があります。また読みやすさ、興味の持てる内容、安全への配慮に関しての意見が目立ちました。特に読みやすさについては情報量が多過ぎるので、よりシンプルで分かりやすい教科書にしてほしい、そういう声が上がっています。また、結果が見てすぐ分かってしまう教科書は思考を育てるという点で疑問があるという声も上がっていました。

3点目です。お手元の報告書の内容から、特にお伝えしておきたい点と補足させていただきたい点がありますので、御報告いたします。

新学習指導要領では、主体的、対話的で深い学びの実現が授業を進めていく上で重要な視点となっています。特に理科においては、理科の見方、考え方を働かせた問題解決的な流れを通して、主体的、対話的、深い学びの実現を目指す必要があります。どの教科書も、この点について大変意識した構成になっています。その中でも特に特徴的な部分について紹介いたします。

東京書籍、問題解決学習の導入の部分。つまり、問題づくりの部分で、中学年では3ページ使用しています。主体的な問題づくりへの意識づけを工夫して

いるということです。また、理科の見方というコーナーを適宜設けて、自然事象について考える際の必要な見方、考え方を示しています。これは教師の助言に活用したり、児童の思考の方向づけとして有効です。また問題を見つける場面、予想や多様な考えをもとに深め合う場面を具体的な対話例で多く示しています。

大日本図書です。他の教科書に比べて学習の流れが端的に表現され、児童にとって分かりやすいです。また、各学年で育成する資質、能力の部分に印をつけ、教師も児童も意識できるように配慮されています。また、どのような理科の見方を働かせるべきかという制限をあえてしていません。なるべく児童の自由な発想で、自然事象を見ることができるようになっています。必要に応じて、キャラクターの吹き出しで理科の見方を示しているところもありました。また、理科の考え方については、観察、実験のタイトルで表現しています。さらに実験、観察の結果や図、結果についてですけれども、図や表、写真のみで示し、言葉での詳しい説明を控えた書き方をしているところが多かったと思います。

学校図書です。巻頭に学習指導要領で、各学年で重点的に育成する資質、能力。3年でいうと比較、4年では関係、図形、5年は条件制御、6年は多面的な思考をしっかりと示しています。指導者も児童も意識できるように構成されています。また問題解決の力を10の視点に整理して、その中から単元ごとに3つの力を取り上げて重点的に指導し、年間を通して問題解決の力を育成できるように構成されています。また結果や考察で詳しい説明を極力控え、自分で考え、表現する力の育成ができるような構成になっています。

教育出版です。巻頭に学習の進め方とノートのとめ方を見開きで対比させて示し、問題解決的な思考の流れを整理する能力が育つように配慮しています。他の発行者に比べて実験方法や結果のとめ方例を児童のノート例で示している部分が多いのが特徴です。結果が予想どおりにならなかった場合の見直しの視点をイラストの吹き出しで示し、失敗として扱わず、実験の方法を見直したり、予想を見直したりするなどしながら、新たな考えにたどり着けるようにする反証の考え方をする大切さにも配慮しています。

啓林館です。学習の流れが見やすく、児童にとっても教師にとっても分かり

やすい構成です。他の発行者と違うところは、結果から分かることが丁寧に示されている点です。また理科の見方、考え方については、教師の問いかけや児童の発問例の中で随所に示しています。結果が予想どおりにならなかった場合の見直しの視点、それもしっかりと示されていました。

また、単元の配列ですが、学校図書は5年、物の運動、つまり、振り子の学習が学年の一番初めに位置づけています。5年生で育成する条件制御という実験計画を立てる力を育成しやすい単元なんです。逆に誤差が生じる実験結果を使うために平均という考え方を使う必要があります。この時点では算数では学びがまだない時期です。条件制御の力をつけるという点では最初にもってくる価値がありますが、算数での学びがないというところで、どちらを優先するのか、ここが悩むところです。他の発行者では2学期以降に、この振り子については扱っています。

また、新学習指導要領では、自然災害や防災を必ず取り上げることになっています。取り上げる場面として5年の天気の変化、流れる水の働き、6年の大地の作りと変化になっていますが、教科書によって取り扱い方が特徴的です。1つの単元として取り上げているのが東京書籍、学校図書、教育出版です。他社は発展として扱う、または単元の終わりのところに扱っているという会社もありました。

最後に、プログラミング教育です。新学習指導要領では、理科でプログラミング教育を扱うこととして取り扱いに説明されています。各教科書発行者の扱い方が異なりますので御報告いたします。

東京書籍、大日本図書はデジタルコンテンツによるプログラミングの体験ができるようになっていきます。QRコードでリンク先へ入り、プログラムを作ります。そのプログラムで人感センサー、明るさセンサーなどを活用して実体験できるようになっています。この場合、人感センサーや明るさセンサー、スイッチなどを購入する必要があります。啓林館はセンサーを使った例を紹介し、実施する場合は購入が必要です。センサー1セット、調べたところ約1万5,000円から2万円程度の物かなと思っています。各グループにセットすると、その8倍の予算が必要になってくるとおられます。学校図書、教育出版は、デ

デジタルコンテンツによるプログラミング体験ができます。パソコン上での仮想体験となります。QRコードでリンク先へ入ることで実験機なしでも体験することができます。いずれにしてもQRコードを読み込み、授業で活用できる環境を八王子市で整える必要が出てきます。啓林館は端末にプログラミング教育の支援としてシート&シールを掲載しており、体験することができるようになっています。

最後に、実体験を通して興味関心が学ぶ意欲につながり、その中で問題解決の過程をしっかり追及する楽しさ、奥深さから理科が大好きという子どもたちを育てていきたいと私たちは考えています。

以上で説明を終わります。ありがとうございました。

安間教育長 ありがとうございました。非常に簡潔で重点的で分かりやすい説明、ありがとうございました。

それでは、理科について御質疑をいただきたいと思いますが、まず私のほうから、これは全ての教科で聞いている内容なんですけれども、これまでの八王子の理科部の先生方、色々な研究授業をおやりになられたり、公開をされたりしていますが、その中で、こんな教科書が使いやすいよという生の声がありましたら御紹介ください。

半田教科別調査部会（理科）副部長 教師として理科の教科書を扱うのに、問題解決の流れが明確であるということが言われます。実験器具を使いますので、安全性を示してあるということが言われます。また八王子市の植物、動物を扱いやすい、そういった写真が多く掲載されている教科書が望ましいという意見が聞かれています。

安間教育長 ありがとうございます。

同様に、例えば、学校公開とか保護者の方が理科の授業を見ていただいたりとか、そういうところで、こんなのが良いですねとか、そんな声がもしあったら御紹介をいただけるとありがたいです。

半田教科別調査部会（理科）副部長 特にはないんですけども、保護者の意見ということでアンケート調査があるんですが、その中であまり丁寧過ぎる実験の扱いはどうだろうかという疑問を投げかけているものがありました。教科書

発行者によると、実験を児童が考える場面では結果、それから考察の部分が見えないような、そういう配慮をしている物もありますので、それは少し考えられているかなというふうに思っています。

安間教育長 ありがとうございます。

それでは、各委員の方々から御質疑をお願いします。

村松委員 御説明ありがとうございました。

まず1つ目、先ほど構成上の工夫の中で、結果が分かる構成ということもおっしゃっていましたが、今、半田副部長のほうからもありましたが、結果の分かる構成と、あとで答えを導き出していく構成、本市ではどちらのほうか教職員、または児童に合っていると思われませんか。

もう1つは、最後のその他のところで人感センサー、センサーを購入する必要がある。理科は実験がありますので、器具をそろえる必要があるんですけども、センサーを購入したほうが良いのかどうか、というのは皆様は率直にどういうふうに思われているか、お聞かせください。

高橋教科別調査部会（理科）部長 子どもたち、問題を解決できる学習の中で、ある程度興味関心を高めていくためには、結果が見えないというのが大前提だと私は思っています。そこの中にしっかりとした思考が働くようにしていかなければなりません。教科書発行者、先ほど説明いたしましたけれども、必ず結果が問題と計画のところに出てこない、裏に出てくるようになっています。ただ、その結果自身にも写真とか表のみで示していて、詳しい説明が書いていない教科書のほうが結構多いのです。どちらかということ、自分たちでそれを表現しなさいというように求めている教科書が多い気がします。私は、そちらの教科書のほうが子どもたちの思考力、表現力を育てる上では重要なかなというふうに思っています。ただ、若手教師が大変多いので、どのようにまとめていくという部分で、参考になるかどうかというのが疑問なのです。逆に丁寧に示していたほうが、若手の教師はやりやすいのではないかなというふうにも感じます。

2点目ですけれども、理科はやはり、実体験がものすごく重要な教科です。なのでプログラミング教育ですが、この実体験で人感センサー等を使わなければ、自分が作り出した電気を目の前で光らせるような実験ができるのです。そ

れが人感センサー、明るさセンサーという役割になります。コンピュータ上で操作する物は実体験というか、画面上での体験だけになりますので、実際に体験させるといふ部分になると、人感センサー等はあったほうが良いのではないかなと思います。ただ高額になります。

安間教育長 ありがとうございます。

他にございましょうか。

笠原委員 色々な資料がたくさん掲載されているのですが、理科はサイエンスですので、よりリアルな描写ですとか、もちろん写真ですとか、そのようなものがたくさんあるんですが、例えば人体の図何かのリアルさについて、先生方の感触を伺いたいのですが、リアル過ぎて分かりにくくなってしまっている人がいるかどうか、少し模式化していたほうが見やすいのかどうか。ただ、実際には模式化すれば少し割愛されている部分が出てくるんですけども、そのあたりはいかがでしょう。

高橋教科別調査部会（理科）部長 やはり、実際に指導する側としては、本物を知らせたいという思いがすごく強いので、なるべくリアルに描かれている物を扱っていききたいかなというふうに思っています。

安間教育長 ありがとうございます。

他にございましょうか。

伊東委員 御説明ありがとうございました。算数、数学や理科は色々な解き方、子どもたちも考えて、そして話し合っ、そして結論を解明していくという、いわゆる問題解決学習、問題解決的な学習、ちょっと指導者の違いはあるんでしょうけど、そういった手法を取る教科だと思っんですけども、人によると、既に、その問題というのは科学的には解明されていることなから、そういったことをしっかり教えてから考えさせるといふような自分はやり方のほうが良いのではないかと、そういう理科学習を推奨する人もいますのですけれども、まあどちらも一長一短あると思います。八王子の子どもたちにしてみるとどちらのような手法の教え方のほうが良いのか、ちょっとお伺いしたいと思います。

半田教科別調査部会（理科）副部長 八王子の子どもたちにとっては、思考力、

表現力がやはり弱い部分があります。身近な色々な現象に対して疑問を感じ、それから課題を見つけという、そこはとても大切な場面だと思いますので、ですから問題解決的な手法で自分の課題を解決していく、そういった形の教科書が望ましいというふうに思っています。

安間教育長 ありがとうございます。

柴田委員 先ほど、八王子の子どもたちの実態として、自然的な事象に関心が高く、実験とか観察というものを積極的にやる子どもが多いというふうに伺ったのですけれども、こういう実験とか観察をする学習をする上で教科書に配慮してほしいことなどがありましたら教えてください。

高橋教科別調査部会（理科）部長 実験がやはり特に危険が伴いますということで、安全配慮、それについてはしっかりと、どの教科書にも書かれていると思います。先ほどお話ししましたけれども、理科になかなか苦手さを感じている教員も理科を指導しますので、実験場面の中でやはり詳しく手順が書かれているもの、また準備するものはどういうものなのか、そういうことが明確に書かれていると準備もしやすく、また安全に指導できるのではないかなと感じています。

安間教育長 ありがとうございます。

ほかにございますか。よろしゅうございますか。

それでは、各委員から理科の教科書に関する御意見をいただきたいと思えます。

笠原委員 より自然科学の分野において、まず正確な意識や体験ができることを本当に参考にできる教科書であってほしいと思いますので、その辺はとても大事なのではないかなというところです。

伊東委員 理科については、やはり、内容的には小学校の段階では子どもたちの興味、関心は高いのですけれども、中学校になると理科離れといいますが、現実の内容とちょっと遊離していくようなところが教科の内容になって理科嫌いになってしまうということがあるのですけれども、ぜひ身近な日常生活の事象の中から学習内容との関連を図る、そういったことなどをしっかり関連づけられているような教科書を選んで、何とか小学校の段階から中学校に上がってい

く時に理科嫌いになるような子どもがいないようにしたいなというふうには思
って、そういう観点から選んでいただきたいなというふうに思っています。

安間教育長 ありがとうございます。

柴田委員 私は、やはり生活の中の実体験であるとか、それから観察、それから
実験というものが明確な流れに沿って子どもたちの中に促されるような工夫が
あるものであるとか、問題解決への思考を行うに当たっての流れがしっかりと
示されているものというところに重きを置いていきたいというふうに思います。

安間教育長 ありがとうございます。

村松委員 皆様もおっしゃっていらっしゃるのですけれども、理科が分かりにく
く興味がない、または理科を苦手をしている子どもたちの多くは、理科が難し
そう、言葉が難しい、覚えることがたくさんありそうなど、理科を学ぶ楽しさ
を感じる前に苦手意識をもってしまう。理科は実験と観察が基本なので、若手
の教員が教えやすく、また難しい言葉も子どもたちが丁寧なレイアウトで興味
をもち、理科で学習したことができる、分かったと実感できることを意識して
いる教科書が私は必要と感じておりますので、検討していきたいと思っていま
す。

安間教育長 ありがとうございます。

各委員の方々から御意見をいただきました。以上を参考に、皆様、協議を進
めてまいりたいというふうに思います。

それでは、理科に関する協議、これで終わりにさせていただきます。

それでは、次の教科書に移ります。

安間教育長 それでは、生活について協議を始めたいと思います。まずは、調査
部会から御報告をお願いします。

山元教科別調査部会（生活）部長 どうぞよろしくお願いいたします。

生活科の目標は、具体的な生活の体験を通して、身近な生活に関わる、また
考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質、能力を育成するこ
とです。

この目標の趣旨は3つあります。1つ、具体的な活動や体験を通すこと。2

つ、身近な生活に関わる見方、考え方を生かすこと。3つ、自立し生活を豊かにすることです。この生活科の目標を達成するための指導において使われる教科書は、八王子市の多様性に対応できる汎用性の高いものが良いと考えます。八王子市は、ブランドメッセージのポスターにもあるように、都会のにぎわいと自然の心地よさがバランスよく調和したまちです。八王子市は、面積が広く、山間部、平野の市街地、農業地域、工業地域、商業地域、丘陵地のニュータウンとさまざまであり、地域による差異が大きいと言えます。そこに住む子どもたちの経験値も課題も違ってきます。従って、八王子市の地域の特性というなら多様性が挙げられると思います。この多様性に対応できる汎用性の高いものが良いと考えます。

生活科は、教科書で技術的に知識を学ぶ教科ではありません。児童の思いや願いから生まれた主体的で具体的な活動を広げ、深め、経験から学び取らせる教科です。ですから、八王子市の教員にとって生活科の教科書は児童の活動のきっかけとなるもの、児童の動機づけとなるものが良いと考えます。詳しい説明的な書き方より、児童が教科書を見てやってみたいなと思える活動のきっかけとなるものが良いと思います。

一方、調べ方や活動の仕方といった手段的知識の参考になる教科書となることが大切だと考えています。八王子市は小学校数が70校あり、児童数は6人から908人と大きく違ってきます。そこで勤務する教員には、経験の浅い教員も多くいます。全教員において生活科の授業が活動あって学びなしとならないよう、子どもたちの資質、能力が高められ助けとなる教科書が重要です。

教科書が学びの段階を多く示していますが、その過程に「見つける」、「比べる」、「例える」、「試す」、「見通す」、「工夫する」が意図的に組み込まれていることが気づきの質が高まります。児童が体験活動と表現活動を相互に繰り返しながら学習活動の質を高め、気づきを確かなものにしていくという、「主体的、対話的で深い学び」につながる学習活動が望まれます。そうしたアクティブラーニングの過程を適切に組み立てている教科書が教員にとっての助けとなると考えます。

さらには、振り返りを大事に扱っていることも教科書に望むところです。主

体的な学習に向かう態度とは、児童が学習過程を自分でコントロールできることも求めています。すなわち、自分の学びの状態を振り返り、何が分かったのか、どこまでできるようになったのか、この後の課題は何かといったことを振り返りで見詰め、次の時間の自分の学習のめあてへとつなぐことが児童にとって大切です。児童が思いや願いを持つ、主体的な活動を行う、表現する、振り返り次につなげる、児童がこうした学びの過程を自然と分かり身につけていけるような構成の教科書が学習上の自立の助けになる教科書と考えます。

最後に、調査、研究のうち、構成上の工夫で「主体的、対話的で深い学び」の実現に向け配慮しているかについて申し上げます。

東京書籍は、伝え合いや交流が生まれる工夫が例示しており、吹き出しのつばやきを見て課題をつかむ参考となっています。

学校図書は、「見つける」から「調べる」、「まとめる」の3段階の学びの構成で、問題解決能力がつくようになっています。

教育出版は、問いかける表記が多く、自然と「主体的、対話的で深い学び」の実現につながりやすくなっています。

光村図書は、活動の段階で考え方が示されていて、自分で活動しやすくなっています。

日本文教出版は、単元が「課題設定」、「活動」、「振り返り」になっており、対話的な活動に配慮しています。

啓林館は、体系的な活動を通して児童の思考力や表現力を育むなどの工夫や動機づけの工夫があります。

大日本図書は、写真や絵が豊富なので、そこから主体的に考えることができ、見出しの言葉が目に入りやすいです。

以上で報告を終わります。どうぞよろしく申し上げます。

安間教育長 ありがとうございました。

これらの報告が終わりました。非常に分かりやすい御説明、ありがとうございました。

私のほうから全教科について聞いているのですが、特に生活科の場合、この教科の特性というのを考えた時に、八王子の先生方、どんな教科書が良いかと

か、そういうのがここであつたら1つお聞かせください。また、保護者の方が御覧になられた何か感想なんかを校長先生方の立場でもしお聞きになったことがあるのでしたら、それもあわせてお伺いいたします。

辻教科別調査部会（生活）副部長　　まず、八王子の先生たちにとっての生活科の教科書でふさわしいものという御質問なのですけれども、生活科の部長山元が申し上げたような、やはり、子どもの主体的な体験を通して学ぶということの認識は必ずしも高まってははいないのではないかな、全体に浸透し切れてはいないのではないのかなという気はしています。活動があつて学びなしというような表現を先ほども使っていましたけれども、あれを総合的な学習の時間によく言われている言い方なのですけれども、一步間違えば、やはり、生活科もそのような傾向を負ってしまうようなことがあると思います。

例えば、2年生でミニトマトをみんなで植えるわけですけれども、これも別にみんなでミニトマトを植える必要はないわけです。子どもたちがナスが植えてみたいな、トマトではなくてキュウリも育てたいな、そういうような思いをもってくれるように進めていくことが大事だと思いますので、そういう意味では、教科書が先生たちにそういう多様性、子どもの主体性を引き出すことが大事だよということを、学習の過程が分かる、先生たちにも子どもたちにもそれが伝わるような教科書、それがふさわしいだろうなというふうに私は思っています。

それから、保護者からの声というのは直接聞いたということはないのですけれども、ただ、今回のアンケートの中には、人種、あるいは障害、そういったものへの配慮を望むというのがはっきり生活科について書かれていました。つまり、共生社会の実現という意識をもって見てくださいというような御意見だったと思うのですけれども、どの教科書も開いてみますと、人種の違う子どもが教室の中で一緒に遊んでいたりと、あるいは車椅子の子が押してもらいながら公園で何かを探していたりするような絵が入っています。ですので、そういった配慮というのは各発行者ともよく考えているのではないのかなというふうに捉えるところです。

安間教育長　　ありがとうございました。

それでは、各委員の皆様方から御質疑いただきたいと思います。いかがでしょうか。

伊東委員 御説明ありがとうございました。

御説明のとおりだと思うのですね。生活科って体験があって、そういう意味ではあまり教科書の役割というのは、なかなかちょっと違うのかなと思いますけれども、そういう意味では体験をどう振り返っていくかという、そういうところがすごく重要なのですけれども、小学校の1、2年生が体験を振り返った時に教科書にはどのようなものがそろっていると振り返りやすいのか、その辺を教えていただければと思います。

辻教科別調査部会（生活）副部長 振り返りのページの形を変えて各発行者とっていると思います。「振り返ってみよう」と投げかけているところもありますし、あるいは「表現してみよう」の後につけ加えているような形で振り返りというふうな言い方をしていないところもありますし、単元ごとに入れているところもあれば、1学期の振り返りみたいな形にしているところもあると思います。そこで、軽重は特に学年にもよると思うのですけれども、1年生段階においては、やはり自分たちが例えばアサガオを植えて育ててきたとしたら、その時間的な振り返りとともにアサガオがこういうふうに変化をしたということ子どもなりの概念として捉えられるということが大事だと思いますし、その中で自分自身がアサガオと関わってアサガオをととても大切にできた、アサガオさんというふうな言い方をよく授業の中で子どもがしているのですけれども、そういったアサガオに対する愛着、生き物に対する愛着も感じて、種ができたから今度はその種を植えてまた花を咲かせてあげたいとか、次の活動につなげるということは1年生でもできると思います。そういった振り返り、そしてその自分の成長と次の段階というものが子どもたちの中に思いとして描ける、そういった振り返りが正しいと思います。

安間教育長 ありがとうございます。

他の委員から御質疑ございませんか。

柴田委員 御説明ありがとうございました。

生活の教科書は、特に保育園、幼稚園との接続というところが生活科では重

要になってくると思いますが、そういった意味でどういう配慮がなされている教科書が扱いやすいか教えてください。

辻教科別調査部会（生活）副部長　　まず、今回、スタートカリキュラムがどの教科書の出だしにも入っています。スタートカリキュラムという形ではないのですけれども、1年生が楽しもうとか、表現はまちまちなのですけれども、ページの大きさを変えて、明確に単元の中に入ってくるのとは違う形で入れてきている教科書発行者が多いと思います。そういう意味では幼児期の経験を生かして、だけれども45分の授業というものにすぐ入れるわけではない、その間奏的な1か月間だと思えるのですけれども、それをスタートカリキュラムによってきちんと押さえていこうという今回の学習指導要領の改訂の趣旨に触れてくるところはよく押さえられているなと思います。

それから、中をよく読んでいきますと、先生が問いかけているような挿絵の中で「幼稚園、保育園の時はどんなふうに遊んでいたかな」などというせりふが入ってきています。そういったところでやはり子どもの既存の体験を想起させて、そこから自分たちで学びを作っていくかそうという工夫がなされているなというふうに感じます。

安間教育長　　ありがとうございます。

他に。

村松委員　　全部で7冊、生活の教科書ですけれども、この7冊の中で八王子市の地域性に合っているのではないかとか、そういうふうに考えていらっしゃる教科書はありますか。

辻教科別調査部会（生活）副部長　　はっきりどの発行者というのは、私はあまり差異を感じてはいないというのが本当のことだと思います。ただ、先ほど部長山本からあったように、八王子は地域が非常に多様です。私は松が谷というニュータウンにおりますけれども、挿絵1つとっても、「夏で遊ぼう」というのを全部並べてみたのですけれども、子どもたちが夏で飛び出して遊ぼうという挿絵が例えば公園の絵があります。あるいは、学校の中でとじているところもありますし、野原の絵や写真のところもあるのです。それ1つひとつ、松が谷の子どもたちだったらどの発行者の絵に一番反応して自分たちの「夏で遊ぼ

う」を想起できるかな、三小の子だったらどうかなと、自分自身、自分が経験してきているような学校を思い出しながら考えてみたのですけれども、挿絵や写真の中でもそういった多様性にどこまで対応できるかな、八王子においてはこのくらいの絵が良いのかな、写真が良いのかなというものを比べる要素がたくさんあったなというふうに思っております。

安間教育長 ありがとうございます。

笠原委員 安全教育から科学の入り口までたくさんの要素があるべきではないかなと思いますけれども、実際には活動をメインにする科だと思いますので、子どもたちがこれを抱えて野原に出ていくわけではないのですよね。実際に子どもたちがそれを開く場面はどのような場面なのか、教えていただけますか。

辻教科別調査部会（生活）副部長 やはり、導入場面が一番多いと思います。

子どもたちが、先生がその1ページ、本当に写真とか絵の場面を見て、そこから思えること、思いつくことを自由討論して、抽象的なのですけれども、その中から、「ああ、ではそれ良いよね、では次のページをめくってごらん」というと、今度は例えば夏で遊ぼうなどを見ていくと、水鉄砲遊びをしているようなものがある、「ああ、水鉄砲やりたいね」というような広がりをもとに作っていく。

でも、そこまで行ったら、やはりあとはさっきの理科の話にもあったのですけれども、一回教科書を閉じて、やっぱり子どもたちと話し合いの中で、彼らの経験、それから彼らが今やってみたいと思う好奇心に応じて、「では、水鉄砲おもしろいよね」、「そういえばお花で色水を作ったことある、そういうのもおもしろいね」とか、そういったようなものにいかに発展させてあげられるか。

それから、そういうことの繰り返しの中で、ここは気づかせたいなということがあると思うのですよ。例えば、ではいよいよ外に、公園に行ってみようねとなった時に、各発行者やはり公園に出かける時の注意点、熱中症に気をつけようねとか、こういう虫は危ないよというのをさりげなく触れています。そういった時には、やはりそれを見て、また子どもに考えさせて話し合う、そういった利用の仕方ができるだろうなと思います。

安間教育長　　ありがとうございます。

他に御質問ございますか。よろしゅうございますか。

それでは、意見交換に移りたいと思います。御意見があれば。

笠原委員　　今伺って、この教科書の使い方がよく分かりました。やはり当初、冒頭で御説明があったように、具体的で身近な生活に生かして、本当に、子どもたちが自分のことが自分でできるようになっていくというための、必要な知恵を授かる教科なのだと思っておりますので、そういうことに配慮があることを重視して考えていきたいと思っております。

安間教育長　　ありがとうございます。

他に。

伊東委員　　新しい学習指導要領では、内容から資質、能力というところを上げたいと思いますけれども、生活科とか、教科書はないのですけれども、こういったところはそういった内容から資質、能力というものを育成する上で重要な教科だと思っておりますが、生活科が誕生してからもう30年近く経つのでしょうか、そういう意味では、生活科の目標とか狙いというのが若い先生たちに理解できていない部分も、もしあるとしたら、やはりこの教科で育成すべき資質について何なのかということがしっかりと明確に表れているような教科書を推していきたいなというふうに思っています。

以上でございます。

安間教育長　　ありがとうございます。

柴田委員　　先ほど御説明いただいたように、保幼小の接続というところでスタートカリキュラムがしっかりしているものであるとか、それから体験後の振り返りがしっかりできるような手だてが工夫されているものというところを重点的に見ていきたいというふうに思います。

安間教育長　　ありがとうございます。

村松委員　　ありがとうございました。

核家族が増える中、家庭での経験が乏しくなったり、兄弟や家族で過ごせる時間が少なくなったりしています。こういう中で生活科は、教科書で具体例が明確であって、自立性を養い、振り返りができる、そういう教科書が望ましい

のではないかと思います。

私の家も家庭菜園をやっていますけれども、八王子では大体ミニトマトなの
ですよね、一番作りやすいということで。ただ、うちの子どもはピーマンが嫌
いだったのですけれども、ピーマンを植えて1つずつ生ってくる実に名前をつ
けさせるのですね。

仲の良い友達の例えば、佐藤君、鈴木君という名前をつけて、今日は佐藤君
が食べごろだなとかそういう、採ってきてと言うと大事そうにもいで持ってき
てくれるのですね。では次は何を植えたいといった時に、いつもミニトマトを
やっているのですけれども、次はナスですとか、オクラですとか、そういった
子どもが、自分が選ぶことが主体性であって、そういう授業が私は望ましいと
思うのですね。でき得るならば、ナスでもピーマンでもオクラでも植えて、そ
れがその後に好奇心に応じて生き物を探そうとかそういったことにつながって
いく、そういうわくわくするような授業、教科書が望ましいと思っていますの
で、よく検討して選んでいきたいなと思っています。

以上です。

安間教育長 八王子の御家庭は本当に頼りになりますね。

よろしゅうございますか。他に特に意見はございますか。

それでは、生活に関する協議、これで終了したいというふうに思います。

次の協議に移ります。

安間教育長 それでは、音楽について協議を始めます。まずは、調査部会から報
告をお願いします。

瀧村教科別調査部会（音楽）副部長 それでは、音楽のほうの調査報告をさせて
いただきます。

音楽のほうは、教育芸術社、それから教育出版の2社ですので、具体的なも
のを見ていただきながら御説明をしたいと思います。

まず、第一の観点の内容のほうです。内容のほうの学習指導要領に示された
各学年の目標について配慮が必要であるかというところですが、こちら
両発行者とも配慮はしてあります。

教育芸術社のほうですけれども、児童の作品の絵とか、あとワークシートの例を示したり、グループ活動の会話を想定した吹き出し、例示なんかもしてあります。音楽や演奏のよさを味わいながら聞くために必要な情報が適切に示されています。3年生の教育芸術社の巻頭を見ていただきたいのですが、そちらのほうを見ていただきますと、1年間の流れが丸印、丸の絵で囲まれているんですね。こういうふうに、この学年では何を学ぶのかが分かりやすく明確にされているので、1年の流れがとても子どもにとっても先生方にとっても見通しをもって学習に取り組むことができるということです。

それから、教育出版のほう、こちらは、全学年を通した分野について、元の系統性に基づいて教材を配置する等、発達段階に応じた無理のないステップアップ、それから学力の定着に配慮してあります。簡単に、3年生の教育出版の8ページ、9ページを見ていただけますでしょうか。こちらのほうになります。ちょっとセロファンがついているところ、後からセロファンの説明もしますが、教育出版のほう、上のほうに「音楽のもと」、音階や調をここでやりますよとか、右側のほうに音符の説明等があります。このように、教科書に共通事項、それから新出記号等を示してあって、これもまた見通しをもって学習ができるというふうになっています。

内容のほうで発達段階という形の、(2)のほうですけれども、こちらのほうは両方ともおおむね配慮をされているということです。

それでは、調査観点の2の構成上の工夫がなされているかということです。

教育芸術社の顕著にされているのが今度は4年生になります。4年生の54ページ、55ページを見ていただきたいと思います。課題を児童の実態に合わせて設定することができ、「主体的、対話的で深い学び」につなげるためにここにキャラクターを使った吹き出しがあって、子どもに親しみやすいような形になっているのと、下のほうにチャレンジマークというものがあるんですね。このチャレンジマークでより深いところに入っていける、そういう主体的な学びができるような形になります。

それに対して教育出版、こちらのほうも同じ4年生の52ページ、53ページを見ていただきたいと思います。こちらのほうを見るとすぐ分かるのですけ

れども、書き込みができるという形で、子どもたちがこれを見て、先ほどの「音楽のもと」みたいなものがあるのですが、書き込みを見ながらここに自分たちで書いていながら考えることができるということですね。

あと、注目していただきたいのが、上のほうに羅針盤のようなマークがあります。これが「学びナビ」といわれるもので、学び方を知ろうということなのですが、このマークが色々なところに散りばめられておりますのと、前のほうのその4年生の巻頭、2ページ目のところにマークについて書かれている欄があります。この2ページ目です。この紫色の右側のところ、ちょっと小さいところですがけれども色々なマークがついていて、鑑賞だとか日本の歌、音のスケッチとか、そういうものが教科書の中にちりばめられているのですね。どういふふうに学習を進めたら良いのかなというところが分かりやすくされているところがあります。

(2)の各領域の分量については、両方とも配慮してあるなというふうに書いてあります。

3番目の観点です。ユニバーサルデザインに関する配慮をしているかというところ、こちらのほう、まずは教育芸術社のほうは3年生の56ページ、57ページを見てください。ここのところなのですけれども、見ていただくと、図形楽譜、絵譜ともいわれるものが書かれていて、鉄琴がシャラララランとか、シンバルがジャーンという、絵であらわすような楽譜が、これで創作で作っていくわけですね。やはり音楽が好きだったり、嫌いな子、苦手な子もいますので、そういうところでこういうような絵譜を使ってやることによって誰でも音楽に親しめるという観点をもってできているというところが特徴になっています。

それから、教育出版のほうですけれども、教育出版では一番最初に見ていただいた3年生の8、9ページ、セロファンがありました。このセロファンを使っているのは教育出版の特徴的なもので、これを見ることによって、子どもたちもうきうきしながら見れることと、先生方が説明する時に、これをうまく使って、音符の名前であるとか長さというところを視覚的に捉えることができる、そういうような形で工夫がされています。そういうところでもユニバーサルと

いう形でみんなが音楽に親しめるという形がとられています。

それでは、次に四つ目の観点のところに行きたいと思います。使用上の便宜についてというところですが、こちらのほうは両方とも、時代のQRコードとか、インターネットの世界につないでいけるということが書かれています。

例えば、教育芸術社のほうは、1年生の11ページを見ていただくと右下のほうにQRコードがついています。曲についてというところのQRコード、これは色々なところにQRコードがついていて、そこに行けばネットの世界に入っていけますので、より詳しく説明があるというところがあります。

それから、教育出版のほうは1年生の一番最初の巻頭のところにあるのですが、巻頭のところに学びリンクというものがあります。こちらのほう、ネットの世界に入ることができます。これは、この両社ともインターネットを使い世界を広くして子どもたちにより詳しく学ぶことができる世界があると思います。

最後に、その他のところに移りたいと思いますけれども、実はこの教科書の表紙に両発行者とも工夫をされていまして、実は、教育芸術社6学年をこういうふうに並べると、ちょっと分かりますかね、1年生から6年生までをこのように並べると1つの絵になるのですね。1年生、1、2、3、4、5、6とずっと並べますと1つの絵になっていて、それはやはり教科書を大切に使うってほしいなという気持ちが込められていると思うのですね。6年間、教科書を大切に使うと1枚の絵になるよ、ぼくは楽しいよ、音楽は楽しいよという気持ちを込めてこういうふうにつくられていると。

それから、教育出版社のほうですが、教育出版社は特に表紙を見ていただくと、1年生、それから3年生、6年生にちょっと注目していただきたいと思うのですが、1年生のところには鍵盤ハーモニカがもう表紙に出ていますね、そういうところで1年生はこれからやる時に鍵盤ハーモニカやるよ、頑張ろうねという気持ちになるし、3年生になるとリコーダーが出てきます。表紙の絵の中にリコーダーが出てきて、3年生からリコーダーが始まるのだ、頑張ろうという気持ちが、それから、6年生になるともちろん弦楽器であると

か金管楽器であるとか、あとジャズ、クラシック、そういう形で音楽の世界が幅広く広がっていくのだよ、そういう形で中学に向けてという形で、表紙についてもやはり子どもたちが楽しく音楽に学べるというようなところも捉えて、特徴的なものがあります。

説明は以上です。

安間教育長 ありがとうございます。

説明が終わりました。

それではまず、私のほうから、基本的な話なのですが、八王子の音楽の先生たちにとって、どんな教科書が使いやすいとかそんなお声はありますか。また、保護者の方が御覧になられて、こういう教科書が良いなという意見がもし校長先生方のお耳に届いていたら御紹介ください。

竹内教科別調査部会（音楽）部長 八王子市の中で、教員であるとか、どんな教科書を採択してほしいかという中ですが、まず生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質や能力を育成するために発達段階に応じた教材を配置していただく。それから、音楽に親しむ態度を育みやすいように、どのように見通しを持って教科書で進めていけるかというのが分かりやすいこと等を願っている声がたくさん聞こえてきました。

本日、子どもたちに教科書の話をしたところ、自分たちにとっては、なかなか生活の中に楽譜というものがないので、こういう楽譜があるということは音楽をやるという勉強になるような気がしてくるというようなことを子どもたちは言っていました。それから、絵があると分かりやすく、歌詞がしっかりと書かれているものだと歌う気になるというようなことも子どもたちから意見が出ておりました。

保護者からの意見はなかなかこちらまでには吸い上がってはいませんが、アンケート等でも音楽科の特質に応じた教科書にしてほしいというようなことが言われておりました。

以上です。

安間教育長 ありがとうございます。

それからもう1点。国語と同様に、音楽は学習指導要領の内容のくくりは1、

2年、3、4年、5、6年になっていますよね。例えば1年の時はA社だったけど2年生の時はB社になるとか、そういうような中で不都合はないと考えてよろしゅうございますか。

竹内教科別調査部会（音楽）部長　新しく採択した教科書で大丈夫ということですよ。

安間教育長　ありがとうございます。

もう1点。音楽の授業の時に歌をいっぱい歌ったり楽器で演奏したりするのですが、歌集みたいなものというのはほぼ全ての学校で買っているのでしょうか。普通は教材費の区分なので、せっかく無償で教科書が配布されているのですから、何とか教科書に載っている曲数だけで済ますなんて、そんなことは現場では不可能ですか。

竹内教科別調査部会（音楽）部長　本校では、歌集を買っていますけれども、実はこの音楽の教科書の中で、教育出版などというのはたくさん曲が載っておりまして、題材から離れて自由に曲を選べるというような観点でつくられています。それから、教育芸術社についてもみんなで楽しんでということとたくさんの曲数が載っておりますので、こちらのほうで使えると良いなと私どもも願っております。

以上です。

安間教育長　ありがとうございます。

それでは、各委員の方々から御質疑ございましたらお伺いしたいと思います。

伊東委員　ありがとうございました。

新しい学習指導要領に準ずる教科書となるわけですから、音楽科、あるいはこれからずっと続くと思いますけれども、実技教科とかこの辺が多いと思います。

当然、「主体的、対話的で深い学び」ということがどういうふう実践できるかというのが大切ですし、また、新しい学習指導要領では総則の中に「学習の基盤となる資質、能力を育成し」ということで、全ての教科を網羅的に見た時にやはり学習の基盤となるものということと言語能力とか言語活動とか、問題解決能力とか色々出ていますけれども。そういう意味でお伺いしますけれど

も、音楽の中のその「主体的、対話的で深い学び」、対話とか言語活動、こういうのというのはどのあたりで教科書のほうに工夫されてつくられているのか、お伺いしたいと思います。

瀧村教科別調査部会（音楽）部長　教育芸術社のほうでございますが、グループ活動の時の会話を想定した吹き出しを豊富に載せたり、児童の作品例やワークシートを載せたりしているということで、子どもたちの中で意見交換をする観点になるキーワードというのが載せてあります。

教育出版のほうで申し上げますと、「音楽のもと」というのが見開きごとに示されていたり「学びナビ」というのがあったりする中で、子どもたちが学び合う音楽の中で自分たちで対話をしながら学びを深めていくというプロセスが示されております。

以上です。

安間教育長　ありがとうございます。

他に御質疑ございませんか。

笠原委員　小学校の音楽は、時に勉強が苦手な子も大好きと言ってくれる教科の1つで、とても大事な分野だと思っております。そういう意味では、教科書でなるべくこういうようなことが進んでいくということではあるでしょうけれども、実際にはこの教科書に載っている音楽に関する例えばレコード、今レコードではないですね、CDですとかそういった本当に良い生の音楽を聞くですとか、そういったことに関しては現場ではどういうふうにされていますか。

竹内教科別調査部会（音楽）部長　DVDでありますとかCDでありますとか、そういうものを使いながら、できるだけ実物のようなものとかそういうもの、本物のものを見せる機会を多くしていただくということを大切にしています。

以上でございます。

安間教育長　ありがとうございます。

他に御質疑ございませんか。

村松委員　音楽の場合は多分、流行だとは思いますが、このQRコード、これは授業中に使用することはあるのですか。

竹内教科別調査部会（音楽）部長　なかなか難しいところもあるので、今後、八

王子市の中で進めていければ良いなというふうに願っております。

以上です。

安間教育長　よろしゅうございますか。

他にございますか。よろしゅうございますか。

それでは、御質疑がないようでございますので、この辺で教育委員さんからの御意見をいただきたいと思っております。いかがでしょうか。

伊東委員　先ほど御説明いただきました、そうですね、やはり深い学び、実技とか鑑賞だけではなく、ちょっとそういう言い方は変なのですが。子どもたちが考えるそういう深い学び、思考、そういったものが教科書を通して展開できるような教科書を選んでいきたいなというふうに思っています。

安間教育長　ありがとうございます。

他にございませんか。

柴田委員　先ほど御説明いただいたように、音楽って一生楽しむことができる分野だと思いますので、楽譜の基礎的な読み方が分かりやすかったりとか、それから良い音をしっかりと聞いていくような力であるとか、それからあと、みんながハーモニーを作っていくということの大切さとか、そういった観点から見ていきたいというふうに思います。

安間教育長　ありがとうございます。

他にございますか。

村松委員　この音楽というのは、表現領域、鑑賞領域があると思うのですが、それが心の中で融合して一緒になってその子の感性になると思いますので、音楽を通じて心根を育んでもらえるようなそういう温かい教科書。また、私も実際に小学校のころ楽器が苦手で、今のように丁寧な作りではないので本当に苦手だったので、楽器が苦手にならないようなよく分かる、音符とか、そういうものが分かるような教科書が良いと思います。

あともう1つ、先ほど質問させていただいたQRコード、これは全教科に言えることなのですが、授業中に使うというのは、これはもうICTのほうで活用していかなければいけませんので、その部分をどうするのか、またこれは御家庭で振り返り、または宿題とか色々授業でやる中で、音楽の場合は大

変有効だと思うのです。ですから活用できればと思うのですけれども、実際そうになると、保護者、PTAとしてはやはり携帯、スマホの問題が出てきますので、では持っていない子はどうするのか、使えない子はどうするのかということが出てきますので、その辺も考慮しながらちょっと教科書を考えていきたいなというふうに思っています。

以上です。

安間教育長 ありがとうございます。

笠原委員 音楽は、例えば、本当に言葉の苦手な子でも歌うことができるとか、表現力の1つとしても子どもの力を伸ばすのにも大きく寄与していただけるものと思っております。そういうこともありますので、幅広いジャンルの音楽に触れられると良いなと思っております。6年生、ジャズの表紙になっているなどというのは、すばらしいなと思ひまして、要するにその幅広さということもとても意味があるかなと思っております。

もう1つありました。すみません、補足で、音楽のその深めるということについて、数学のほうの、算数のほうの教科書のどこかに書いてあったのですが、算数って音楽と関係があるのだよというセンテンスが載っている部分がありまして、そういった本当の単なる感性の問題ではなくて、音楽の本質というものも味わえるようなものになっていると、うれしいなと思っております。

安間教育長 ありがとうございます。

他に御意見、よろしゅうございますか。

それでは、音楽に関する協議、これで終了としたいというふうに思います。

それでは、次の協議に移ります。

安間教育長 それでは、図画工作についての協議を始めたいと思います。まずは、調査部会から御報告をお願いします。

飯澤教科別調査部会（図画工作）部長 それでは、1、内容のところから御説明をさせていただきます。

それぞれ、各学年の目標、内容の押さえ方に配慮しているかというところについては、しっかりと両発行者、2社しかありませんが、しっかりと知識、思

考力、判断力、表現力の学びに力になります3つの目標が、それぞれの題材の学習のめあてとして児童に分かりやすい書き方として表記をしております。

(2)の児童の発達段階に対して配慮していることに関しては、それぞれ、例えば日文ですと特設ページの「ひらめきポケット」、ちょっと見ていただくと分かりますが、5、6年の下の34ページからですけれども、ひらめきとポケットというのがあります。そういうところで配慮が感じられるところです。

開隆堂ですと、同じように特設ページとして5、6年下の50ページに、同じような「造形の引き出し」というのがございまして、そういうところで1つの資料として掲出しており、このことが発達段階、それぞれの学年に、非常に使いやすい、分かりやすい教科書になっているかと思えます。

あと、それぞれの先ほど言いました学習のめあてですけれども、日文の手とハートと若葉、この3つの表示がありまして、それぞれ、見つけたり工夫したりすること、ハートは感じたり考えたりすること、活動の中で楽しむこと、これについては5、6年の下でいきますと一番最初の、この目次のところにそれが書いているのですけれども、そこに説明があります。あと、開隆堂のほう、やはり目次のところにキャラクターが用意されていまして、工夫さん、ひらめきさん、工作さん、この3つがそれぞれの学習のめあてを子どもにも分かりやすく表示するというような工夫がされております。

続きまして、2の構成上の工夫につきましては、(1)の重点調査項目の「主体的、対話的で深い学び」について、日文さんのほうは、学習のめあて以外に、「気をつけよう」、「片づけよう」、「活動の後で考えてみよう」、それを各題材ごとに一番下のページのところに書いてありまして、題材をやりながら、あるいはやった後、それについての振り返りが用意されております。開隆堂のほうも、「振り返り、あわせて学ぼう」という、こういうものがあります。

開隆堂のほうですが、左の下のほうに英語表記があるのですね。これは用具とか材料に関しての主な、1面だけなのですけれども、用意されています。これもQRというふうに色々なところに書いてあると思うのですが、QRコードの中を見ていきますと、ネイティブな発音がその言葉で表現されておりました。

これは興味、関心が少し英語科につながっていくのかなというふうに感じております。

あと、「主体的、対話的で深い学び」ということに関連していきますと、開隆堂さんの3年、4年の下の57ページのあたり、話し合いの仕方というところで、「造形の引き出し」という特設ステージになりますけれども、そこで話し合いをどんなふうにして展開しているというところも子どもたちには分かりやすいページになっているかなというふうに思っております。

日文さんについては、各題材の中を見ていきますと、写真の中で相談をしながらやっているという写真がどの学年にも見受けられますので、この点についてもそれぞれの発行者で工夫をされているのかなというふうに思っております。

(2)については本当によく工夫されておりますが、全部数えてみますと、開隆堂のほう若干工作が多いかなというところぐらいでした。

次、3番目、ユニバーサルデザインについて、日文もカラーユニバーサルデザイン、あるいはUDのフォントも使われて、開隆堂も、もちろん使われております。どちらかという丸いゴシックのような、遠くから見てもよく視認性のある表記になっているということでございます。

それと、ちょっと特徴的なのは、開隆堂の5、6年の下のところを見ていただくと分かるのですが、5、6年の下の44ページを御覧いただいて、語句や単語の途中での改行がされていないのですね。どこを見てもそうなのです。分かりやすいのは、日文の5、6年の下の55ページ、そのページ、どこもそうなのですけれども、例えばこのゲルニカの説明のところ、55ページの真ん中よりちょっと下あたり、スペインのまちゲルニカのゲルニカが分かれて改行されているのですね。日文のほうは、あまりそのことは考えずに編集はされているようです。開隆堂のほうは一切、語句の途中での改行はありませんが、一目読みというふうに実は言うと思うのですけれども、色々な発達特性のお子さんがいると思いますのでその辺の配慮があるかなというふうに思いました。

あと、(3)の印刷、写真、挿絵、図形等についてということなのですが、日文さんのやはり5、6年の下のところ、65ページ、一番最後のところ、写真の上にまたさらに写真が配置されているこういうものがあるのですけ

れども、開隆堂さんのほうは一切そういうところはなく、やはり視認性を非常によく考えて混乱のないページの作り方をしているかなというところがありました。これは特にというか、明らかに違いがある点ですので、ここは今御説明しておいたほうが良いかなというふうに思いました。

あと、印刷のその見やすいかということに関していくと、日文さんが全て見開きで題材を紹介しているのですね。開隆堂さんについては、開隆堂の5、6の下の21ページ、こんなふうに見開きで2題材を掲示しているものもございますが、日文さんは全て見開きで題材を紹介しています。この辺は、やはり1題材、見開きで紹介したほうが分かりやすいというのはあると思います。

最後の4の使用上の便宜についてですけれども、教員にとって使いやすいかということについて言えば、どちらも学習のめあて、振り返りなどが明記されておりますのでここも分かりやすいですし、教師としてもどのような指導がこの題材の中で必要とされているのかということもよく理解できると思います。

日文さんのほうは、今回は、あまり件数も用意されていないので、そのような編集の意図が多分あったのだと思いますけれども、開隆堂のQRコードについては教師が、特に図工の場合は安全性のことも考えますので、材料の扱い方、あるいは道具の扱い方についてどの題材にも必ず用意されていまして、授業の直前に準備をする時に教師が見るということでも十分役立つものではないかなというふうに思いました。

文科省のほうでも今、道具の使い方、材料の扱い方について、Web上で特設ページを作っているところなのですけれども、そういうような図工教諭にとっては非常にニーズの高いものではないかなというふうには思っていますので。

また、児童にとっても、このQRコードについては、先ほど音楽のほうでも話題になっていたかと思うのですが、家庭学習の時には非常に効果があると思います。また、学校でも今タブレットが40台入っていますけど、特別支援のほうもiPadが5台入っていますので、そのような使い方、やはり言葉とか文字だけではなかなか理解が進まないお子さんも実際におられますので、そういうお子さんだけでもそういうQRコードの中で出てくる動画を見せていくとか、あるいは、先生方全体で、そういう動画を一度見てそれから作業に入って

いく、使い方は色々あると思うのですが、そのQRコードについては開隆堂さんのほうで用意されていました。

以上でございます。

安間教育長 ありがとうございます。

説明が終わりました。図画工作についての御質疑に入りたいと思います、私のほうから全分野に聞いていることですが、それぞれの特性が非常に明確なものでありますから、八王子の図工の先生、専科の先生なんかもいっぱいいらっしゃると思いますけれども、どんな教科書が一番使いやすいというような声があるのか、そこら辺、もしお耳に届いていたらお聞かせください。

また、保護者のほうで図工の教科書について何か特別、先生方のお耳に入っているような御意見があったら御紹介ください。

飯澤教科別調査部会（図画工作）部長 まず、図工の先生、私は美大のほうを出ているのですが、最近の採用の状況を見ますと専門の大学を出ている先生というのはほぼいないのですね。全科の先生が図工を担って、先生として活躍されていますけれども、そういう先生とか、最近、非常に若い先生が多いですから、そういうような現状を考えますと、教科書というのはそういう先生方にとって、本当に図工教育の基礎を学ぶ、1つの大事な図書というふうになると思います。いろんな参考書も出ておりますけれども、まずは自分の手元にある教科書、これに伴って出る指導書というのがあると思いますけれども、それをしっかりと学んで、この教科書の特質、そして、またそれぞれの題材のめあてをきちんと学ぶという意味ではとても大事な図書であると思っております。

先生方もそういうことを、基礎、基本がしっかりと学べる、もう1つ言えば分かりやすく学べるということだと思うのですが、そういう教科書を求めていると思います。

それで、保護者については、家庭学習で、実はこれだけの題材がここに、教科書に載っておりますけれども、5、6年が今、年間50時間になりました。中学年が60時間ですので、これ、全部やろうと思ってもできないのです、現実に。

ですから、たまに保護者の方からこれを家でやっても良いですかという話が

あります。その時に学校でやったものをもう一度やるというお子さんもいらっしゃると思いますので、そういう意味では非常にやはりやり方が分かる部分とか、あと、めあてがはっきり分かる、あと注意する点に分かるというのが、教科書としても必要なものではないかなというふうに思っております。

以上です。

安間教育長 ありがとうございます。先生方の声、保護者のことがよく分かりました。ありがとうございました。

それでは、他に各委員のほうから御質疑ございませんか。

村松委員 ありがとうございました。

図工のこの作品を作っている時って、やはり教科書をあまり使用しないというか見ていないような感じがするのですが、私は。あまりそういう場面を見かけませんけれども、図工のその時間、どうやって教科書を見ながら使用しているのか、ちょっと教えていただきたいのですけれども。

飯澤教科別調査部会（図画工作）部長 私は、東京都の図画工作研究会の会長をしております。なぜこんな話をするかといいますと、私が立場上、若い教員を色々な場面で指導しているところなのですけれども、若い教員には、最低3年間は教科書どおりの題材をやりなさいというふうに私は指導をしております。これは何かと言いますと、やはりベテランの先生方のやり方を見て、結果なのです、作品というのは。結果を見て若い先生方はまねしようとするのです。ところが、その途中経過をほとんど理解しないまま結果だけを求めてしまいますから、ほぼ失敗します。だから、そういう若い先生方の失敗を何度も見ていますので、この教科書にはしっかりとその辺のこと、導入の仕方、展開の仕方、あるいは材料の準備の仕方、安全な道具の使い方、材料については、例えば針金の先をくるっと丸めておくなどというのはひっくりかえした時に目に入ってしまうことがありますので、そういうこともこの教科書にはしっかり書いてあるので、この教科書をしっかりと学ぶということが若い先生にとっては非常に大事なことだというふうに私は言っております。

だから、ベテランになってあまり使わない教員も確かにおりますけれども、私はこういう教科書を、本当にすばらしいベテランの先生方が作った教科書で

すので、これを実際手元に置いて勉強してほしいな、そんなふうな思いで話をしております。

以上です。

安間教育長 ありがとうございます。

笠原委員 先ほどの音楽でもおっしゃられたのですが、色々な発達特性を持つお子さんで、音が苦手だったり、勉強そのものが苦手でも、図工とか音楽で自己表現をしている子というのたくさんいると思うのですけれども、そういったある特性をもった子たちへの配慮などをこの教科書の中で感じられるところがあったら教えていただきたいと思います。

それから、自分が図工の教科書を好きだったのですけれども、それは絵を見るのがとても好きで、見たことのない美術館の絵が載っていたりするというのが非常に魅力的だったのですけれども、今どきの先生方がそういうものをまたOHPとか何かそういう副教材みたいなものを使って映写されたりするのかどうか、そういうことも教えてください。

飯澤教科別調査部会（図画工作）部長 まず、ユニバーサルデザインというような視点から言いますと、やはり先ほどもおっしゃいましたように、これは両発行者ともUDフォントは使って見やすい文字になっていますけれども、特に今回については、開隆堂の教科書については、先ほど言いました語句や単語の途中でも改行をせずに、一目読みができるような工夫がされているところも1つあるのかなというふうに思っています。

あと、背景、図案の後ろ、背景に写真を使わずに本当に見やすくしている。私は特に、QRコードで、QRコードが100以上あるんですね。コンテンツを数えると300以上ありました。この中にやはり動画がかなり入っていて、その動画を見ることによって、その辺はやはり言葉とか文字ではなかなか伝わらないお子様、理解が深まらないお子さんにとっては、ある意味一目瞭然といえますか、動画を見ることによってこの題材はこういうふうなことをめあてにしているのだなというのが理解できるのではないかなと思いますので。ですから、それはスマホとか何かがないとこれはできないというのではなくて、学校にあるタブレットですとかそういうところで、一斉に見せる必要もあると

思いますけれども、そのお子さんだけにちょっと別な場所で見せていくということもあろうかなというふうに思っておりますけど、これもかなり使われるものではないかなというふうに思っています。

あと、教科書は本当に見ていても私も楽しいなと思うのですけれども、今回、両発行者の教科書でも美術館をかなり意識して作っています。紙上美術館ですね。ですから、この鑑賞教育についても、これは本当に両発行者かなり力を入れて、全国の美術館からの作品を集めておりますし、発達段階に合わせて、それぞれ材料についての視点でどのようなものなのかという視点で、高学年はかなり外国の作品なども紹介をして、鑑賞教育にはかなり力を入れているのかなというふうに思っています。ですから、見ているだけでも楽しい教科書にはなっているのだろうなというふうに思います。

柴田委員 図工科は、子どもたちに感性とか想像性を育む上でとても重要な教科であると思います。先ほど年間大体50、60時間ぐらいの時間数ということなので、やはりこれだけでは足りないのかもしれないというふうに思います。

そこで、やはり家庭との連携というところが必要になってくるのだと思いますけれども、例えば今のような夏休みの時期に、御家庭で保護者の方と一緒に何か作品づくりにチャレンジをするといった場合に、どういう教科書であればそういった面で活用できるのかといったポイントについてお伺いしたいと思います。

飯澤教科別調査部会（図画工作）部長 現在は、図工室に置いております作品、絵でも工作でもそうなのですけれども、1年から6年までこういうものを展示したり、あるいは、校舎内に色々作品を展示する場所を工夫して、それぞれの学校で廊下やコーナーを設けて、作品を展示していると思うのですけれども、その中にやはり子どもたちが気に入った作品なんかがあるのですね。そうすると、もう学年関係なく「これ作ってみたい」と言って図工の先生のところに来ます。そういう時に個別にその時は教えてあげるといって、休み時間とか放課後ですけれども、そういう時に「こういうところに気をつけてやっごらん」といようなことは、その子どもとの会話の中でできると思います。場合によっては、保護者のほうからお電話をいただいたりして、この材料はどこに行った

ら手に入りますかなどというお電話をいただいたりすることもありますので、そんなふうにして、もちろん全員ではありませんけれども、非常に興味を持ったお子さんは確かにいまして、そういうふうにしたら直接教員と対話をしながら家庭で、基本的に活動をしているという実態はかなり届いています。

安間教育長 ありがとうございます。

伊東委員 御説明ありがとうございました。

先ほどお話の中でベテランの先生になるとなかなか教科書を使わなくなっていくというお話もあったのですが、本来、学校教育法によると教科書は使用しなければいけないわけなので、その意味では、これだけ両方の教科書に色々な貴重な題材等がたくさん入っていて、子どもたちのために教科書をしっかりと使って授業をしていくためには、教科書はもちろんですけれど、その図画工作の時間というのをどのような形で展開されるのが理想なのでしょうか。そのあたりを教えていただければと思います。

飯澤教科別調査部会（図画工作）部長 よく展覧会があると、展覧会に向けて作品をつくらなければいけないので、そういう先生方、なかなか造形遊びがちょっと少なくなるかな、などという話を聞くのですね。非常に私は残念に思うのですがけれども、図画工作は決して作品づくりが目的ではなくて、結果的に作品になって、要は造形遊びというと作品にならない活動だけのものがあるのです。

これはもう、昭和54年あたりで造形遊びが入ってきまして、もう本当に何十年もたつわけですがけれども、造形遊びが今、図画工作科の基本的な理念だというふうに言われております。

つまり、結果としての作品にならなくても、その造形活動そのものが非常に子どもの情操を育成するというふうにいわれておりますので、私は今後も、当然、教科書を使って造形活動をして、その体験を多く子どもたちにさせていきたい、そんなふうなことを願っております。

私は若い先生方にはそういうことを話をして、図工は結果主義ではないのだぞという話は色々なところでさせていただいております。

以上です。

安間教育長 ありがとうございました。

それでは、教育委員のほうで意見交換をしたいと思います。図画工作に関する御意見、いかがでしょうか。

村松委員　　ありがとうございました。

図画工作は自分で作品を作ること、またお友達と協力して作ることだと、そのために技能を身につけることが重要ですので、作ってみたいという意欲を引き出す題材、また友達と共同で行える活動を提示しているもの、そういうのをイメージしているものを考えておりますけれども、一方で、子どもたちの豊かな感性をやはり育むということで鑑賞にも力を入れる必要も感じますし、そういう教科書が良いのではないかなと思います。

先ほどもお話がありましたように、300以上のこのQRの動画ですとか、色々なものがあると思うのですが、基本的には教員が言葉や実践でやって見せて習わせる、それが私は図工だと思っていますので、そういう教員、ベテラン、専科の先生たちが分かりやすく教えやすく、そして安全に配慮できる教科書を選んでいきたいなと思っています。

以上です。

安間教育長　　ありがとうございます。

他の委員から御意見ございますか。

笠原委員　　色々教えていただいてありがとうございました。この図工の教科書を選ぶ視点をしっかりと確認できました。先生のおっしゃるように、その造形活動そのものが図工の本質というところを、心にとめ置いて子どもたちに本当に活用してもらえる教科書を選びたいと思います。

以上です。

安間教育長　　ありがとうございます。

柴田委員　　やはり、子どもたちに感性とか創造性というものを育ててもらうために、授業の中でやったことを、実際家庭に持ち帰ってまた作ってみたり、また違った発想で作ってみたりとか、保護者の方と一緒にこの教科書を活用して何か創造的なことをしたりというようなことにつながる教科書というような視点で見ていきたいというふうに思います。

安間教育長　　ありがとうございます。

伊東委員　　今、御説明いただきましたように、その造形的な見方、考え方だと思
うのですけれども、こういったことは言葉ではなく、具体的にイメージできる
ような教科書を、やはり、今のお話からいくと良いのだろうなということが1
つと、やはり、子どもたちにたくさんの事例が紹介できるような、そして、子
どもたちの興味、関心を引きつけることができるような、そういう教科書が良
いのではないかなというふうに思います。

以上です。

安間教育長　　ありがとうございます。

調査部の部長さんの図画工作に関する思いが十分伝わった御説明でございま
した。しっかりと考えたいというふうに思っております。

それでは、以上で図画工作に関する協議のほうは終了させていただきます。

それでは、次の科目に移ります。

安間教育長　　それでは、家庭についての協議を開始したいと思います。まずは、
調査部会から御報告、お願いします。

井上教科別調査部会（家庭）部長　　まず、家庭科部会調査報告をさせていただきます。
ます。

まず、市内70校からの調査報告の中で多くあった意見としましては、今回
改定をいたしまして、両発行者とも学習の見通しがもちやすい、あるいは写真
やイラストの工夫がされている、児童が主体的に取り組めるような工夫がされ
ている等の意見がありましたことをまず最初に御報告させていただきます。

では、調査部会の報告をさせていただきます。

観点1の内容です。

（1）です。両発行者とも、学習指導要領の目標及び内容の載せ方に関して
は十分配慮されています。

（2）です。両発行者とも、基礎的、基本的内容から応用へと発達段階に沿
った作りとなっています。1つ例を挙げますと、報告書、中黒の4点目のとこ
ろなのですけれども、学習の定着を章ごとにしていくというページがあります。
2社ありますので、ちょっと開いていただきたいのですけれども、東京書籍の

3 ページであります。

見開きになっているのですけれども、開くと、一番左側に「成長の記録」というところがあるのです。そこに5年生の学習、6年生の学習ということで、自分たちがどこまでできたかなということを確認できるような、このような作りになっています。

それから、73ページのほうを開いてください。そうしますと、ここでは5年生はここまでで終わりです、5年生ではこんなことを学びました、皆様できましたかというのを確認するページになっています。

さらに、129ページを開いてください。ここを見ますと、6年生になってこういうことを学びました、定着しましたかというような確認をするような、このような、特別な作りになっています。

それに対しまして開隆堂のほうは、開隆堂の教科書をお願いします、巻末のほうにまとまっているのですね。126ページを開いていただけますか。そうすると、ここに2年間の学習を振り返ってどうですかということをもとめて確認するようになっていまして、さらに中学校へのつながりを意識させるような作りになっているのが開隆堂の特徴かなというふうに見ています。

続きまして、観点2、構成上の工夫です。

(2)です。東京書籍、7ページを開いてください。主体的、対話的な学びというところなのですけれども、東京書籍は、例えば7ページを見ますと、真ん中の下のほうに「活動1、話し合おう」。それから次のページを開きますと、9ページの右上に「活動2、調べよう」。さらに、次のページを開きますと、今度は左のページの左上に「やってみよう」というふうに、それぞれ活動を促すようなコーナーがつくられています。

開隆堂のほうは、例えば23ページ、見ていただけますか。参考というところで一番上のほうに玉結びの別の方法というのが23ページにあるのですけれども、このように発展的なヒントを示すようなコーナーが幾つかあります。

それから、例えば大題材のところなのですけれども、10ページを開けてください。開隆堂は、必ず大題材の一番最初にタイトルが「なぜ調理をするのだろう」、これが裁縫になりますと「なぜ縫うのだろう」、こういうような表現

の仕方になっていまして、課題追求を促す表現をされているのが特徴になっています。

(2)です。東京書籍ではA4判で145ページあります。開隆堂はA B判で137ページあります。この2社で、大題材の数が異なっています。目次を見ていただくと分かりやすいのですが、一番最初のページを両方比べていただきたいのですが、まず東京書籍のほうは、5年生で8つの題材、それから6年生で7つの題材で、全部で15の題材になっています。それに対して開隆堂は、5年生で11、6年生で9ですので20の題材になっています。

この違いは何かというと、中身的には大きく変わらないのですが、例えば東京書籍の6年生の14番目には「冬を明るく暖かく」というふうな題材があるのです。表紙の下のところなのですが、ここの部分が、例えば開隆堂では、5年生の9番と10番というふうに「暖かく快適に過ごすための着方」、つまり衣食の衣、それから10番では衣食住の住ということで、それをさらに細かく分けて扱っているという特徴があります。

その他にも、「涼しく快適に過ごすには」というところも東京書籍では1つの題材、開隆堂は2つに分けている。あとは家族生活のところもそうですし、それから住生活についても同じように開隆堂のほうは2つに分けているというところで題材の数が違ってきているというふうになっています。

また、開隆堂が一番最後の9番のところの題材については、東京書籍では特に題材として起こしているということはないようです。

また、情報量についてですけど、判の違いもありますけれども、東京書籍のほう若干多いような調査結果です。例えば、東京書籍の25ページと開隆堂の21ページを比べていただくとちょっと分かると思うのです。東京書籍の25ページ、開隆堂の21ページ、ここに裁縫道具の説明が両方あるのですが、若干、東京書籍のほう細かい説明があるというところで少し違いがあるかなというふうに思います。

続きまして、観点3です。ユニバーサルデザインの配慮です。

(1)です。両発行者とも、児童が見通しを立てやすい工夫やユニバーサルデザインのフォントを採用、左ききの子への配慮がなされています。東京書籍

は、キャラクターを活用して児童の視点に立った見出しや言葉の工夫などがあります。開隆堂は、巻末に英語表記の一覧のページとか、先ほど図工のほうでもあったようですけれども、単語が行をまたがないような表記の仕方を開隆堂はされています。

(2)です。東京書籍は、A4判ということもあると思うのですが、写真や絵が多く使われています。一方、開隆堂はA5判ですから、机の上に置いて開いて扱いやすい、スペースをとりやすいというような特徴があるかなというふうに思います。両発行者とも、カラーバリアフリーの対応がされています。

観点4番、(1)です。両発行者とも、2年間の指導系統が見通せるようになっていきます。インターネットを活用した学習ができるようになっております。児童にとっても、環境があれば家庭での学習にも有効です。実技教科ですので、動画が見られれば、調理や裁縫の宿題をする時に児童にとっては心強いかなと思います。

(2)です。実習事項を生かして、現在の目標や発展的な学びを促す工夫が両発行者ともなされています。

最後、(3)です。両発行者とも、和食、郷土料理、伝統文化を取り上げています。特に、八王子市と深い関連性を取り入れた題材はありません。

以上です。

安間教育長 ありがとうございます。

それでは、各教科と同様にまず冒頭、家庭科専科の先生初め八王子の先生方は、どんな種類の、どんな類の、どんな要素のある教科書が使いやすいというのが、そういうふうにお聞きになっていたらお聞かせください。また、仮に、もし保護者のほうからこんな教科書、家庭科の教科書、こんなものが良いのではないですかとかいうような意見が、もしあったとするならば、御紹介をください。

井上教科別調査部会(家庭)部長 家庭科は、普段の生活や社会に出てから、あるいは将来生きていく上でとても重要な教科であるということです。ただ、市内によって地域性に若干異なりもありますので、児童の実態に応じて家庭や地

域の一員として役割を果たす、あるいは、将来の生活の実現に向けて生活を考える、そういうものを大切にしている教科書が使いやすいかなというふうに考えております。

保護者のほうですけれども、家庭科は実技、特に裁縫の時などは保護者の方にサポーターのような形で一緒に入っていただくこともありますので、実際に子どもたちと一緒に作業がしやすいような視点でつくられている教科書が望ましいかなというふうに考えます。

以上です。

安間教育長 学校の先生方や保護者の希望とか思いというのはよく伝わりました。

ちょっと1点、念のための確認なのですが、先ほどの説明で、私の聞き取り方の誤解なのかもしれないのですけれども、A社とB社で5年生で扱っている部分と6年生で扱っている部分の違いというのがあるように聞こえたのですが、その場合、5年生から6年生で採択替えになって別の教科書になった場合、その辺の対応は大丈夫なのでしょうか。

野村統括指導主事 第4学年の社会、第5、第6学年の地図、第2学年の生活、第2、第4、第6学年の図画工作、そして今の第6学年の家庭、そして第4、第6学年の保健につきましては、現年度の教科書をそのまま2年続きなので来年度も使うこととなります。

以上でございます。

安間教育長 分かりました。ありがとうございました。

それでは、私のほうからの質問は以上なので、他の委員さんから何か御質疑がありましたらお寄せください。

笠原委員 お料理などは分かりやすく書いてあって、見やすいなと感じますけれども、1点、私が見た限りでは、左ききの方への配慮というのがちょっと分からなかったもので、教えていただけますでしょうか。

井上教科別調査部会（家庭）部長 では、実際、教科書を見ていただきたいのですけれども、東京書籍の場合は、例えば、127ページをあけてみてください。はさみの使い方ということで、右きき、左ききというような形で比べてあります。

それから、例えば開隆堂は一番最後のページです。見開きになっておりますけれども、包丁の使い方、糸の縫い方、こういう感じだということです。

安間教育長 ありがとうございます。

他に御質問等ありますか。

伊東委員 先ほどから実技教科の先生方の教科の視点ですけれども、やはり「主体的、対話的で深い学び」ということで、教科書づくりの工夫についてお伺いしているのですが、大体、教科書の中に調べてみようとか話し合ってみようとか深めてみようとか、そういうような吹き出しを入れたり、そういうコラボ的な、あるいは何らかの問いを作るとか、そういったことで対応しているというふうに解釈してよろしいのでしょうか。

井上教科別調査部会（家庭）部長 基本的には教科書で教えるということをするので、子どもたちがこれにのっとって、分かりやすいような作りが良いと思うのです。

例えば、開隆堂さんのほうでは3ページのほう、今、委員のおっしゃったように、見ていただくと、左側の円に矢印があるのですけれども、1番、見つける、気づく、2番、分かる、できる、そして深めていくということを全ての題材でこのようなサイクルで教科書を作っております。

東京書籍も全く同じような感じなのですが、書きぶりが違うのですが、開いたところの4ページですけれども、やはり同じような3つのサークルが書いてあるのですが、1番で課題を発見しよう、見つめよう、ステップ2、課題解決、実践してみよう、そしてステップ3で評価、改善をしていこう、このような作りになっておりますので、教師はこれにのっとって子どもたちに分かるよう進めていく形になります。

安間教育長 ありがとうございます。

他に御質問ございますか。よろしゅうございますか。

柴田委員 1つ教えていただきたいのですが、今回の教科書に例えば持続可能な社会に生きるというSDGsのようなそういう考え方を具体的に取り上げて、新しい内容が入ってきておりますけれども、そういった問題解決に取り組む学習を行う場合に、使いやすいテキスト、使いやすい教科書というのはどうい

ものなのでしょうか。

井上教科別調査部会（家庭）部長　先ほど申しあげましたように、家庭科は授業で学んだことを、将来、自分たちの生活の中で生かしていくという部分がありますので、学校で学んで、それを実際また家でさらに深めていくというようなことができる教科書が良いのかなというふうに思いますし、環境の配慮等も今回の改定では、そちらも深く書き表わしているなというふうに考えています。

安間教育長　ありがとうございます。

よろしゅうございますか。

それでは、各委員から家庭科について御意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

村松委員　ありがとうございました。

子どもたちが将来困らないように、この調理や裁縫等において基礎、基本を確実に習得できるためのその工夫ができていないか、見る限り、2つともとても良い教科書だとは思いますが、これを確認しながら参考にすることができる、そういう教科書が必要なのではないかなと思いますけれども、皆様も御覧になったことがあると思いますけれども、よくテレビでお米を研ぐ時に洗剤を入れて研ぐ子どもですとか、「返し縫いをしてください」なんて言われると、針を返すのではなくて雑巾を返しながらかいていくような、そういう子どもがいたりとか、そういうことではやはり困るのですね。

家庭科の教科書こそ、保護者と一緒に学んでいただいて、そういう安全に配慮した教科書を選んでいきたいなと思っています。

以上です。

安間教育長　ありがとうございます。

他の委員の方から御意見ありますか。

笠原委員　村松委員がおっしゃったようなことと共通なのですけれども、やはり、子どもが自分の力で生きていけるものを身に付けてもらうということがとても大事で、また、家庭がそもそも多少こういうことから遠ざかっている家庭もたくさんあると思っています。その家庭の中で、むしろ経験していないからお米を洗剤で研いでしまったりすると思うので、やはりしっかりと教えていただ

くこと、そして身に付けられるような、そういった教材が良いなと思っております。

安間教育長 ありがとうございます。

他にございませんか。

伊東委員 家庭科においても、これは学習指導要領では生活の一環に関わる見方や考え方という言い方をしていますけれども、いずれにしても、そういった、家庭科で学ぶ内容等、家庭科の時間を通して身に付ける資質、能力というのを明確に示されている教科書、こういった教科書を考えていきたいなというふうに思っています。

安間教育長 ありがとうございます。

柴田委員 調理実習とか裁縫の実習などの基礎というところは、もちろんしっかり学ぶとは思いますが、問題解決型の学習にその家庭科の視点から学ぶ上で、教科横断的に物事を捉えていくということももちろん大切ですが、家庭科の側面からどう捉えていくのかということが、系統立てて示されている教科書というものについて見ていきたいというふうに思います。

安間教育長 ありがとうございます。

各委員からの御意見、伺いました。

それでは、家庭科についての協議はこれで終了させていただきたいと思えます。

会議時間も長くなりましたので、ここで暫時休憩とさせていただきます。再開は3時にしたいというふうに思います。

【午後2時45分休憩】

【午後3時00分再開】

安間教育長 それでは、休憩前に引き続き会議を続行いたします。

それでは、保健について協議を開始したいと思います。まずは、調査部会から御報告をお願いします。

山村教科別調査部会（保健）部長 それでは、只今から保健の教科用図書の調査報告をいたします。

まず初めに、八王子市の児童の実態ですが、八王子市はとても広く、地域性や学校規模などによる違いがありまして、一概に、ひとまとめにして語るのは難しいところがあります。そこで、調査部会の委員の教員から、児童の実態について聞き取ったところ、市の中心部やニュータウンの地域では、教育への関心が高いため、発展的な内容が必要とされていることが分かりました。

一方、地域によっては、イラストや写真が多く使われて興味、関心を引きつける内容が好まれる傾向にあることも分かりました。

次に、各学校の調査報告書から分かったことを紹介いたします。

教員にとって使いやすくする配慮としましては、学習の手順が明記されていることや、単元が見開き2ページになっていて、児童に見通しを持たせやすいこと、また、ワークシートのように書き込む欄があって活用しやすいことなどが挙げられました。科学的な資料を多く使っているものについては、理科とつなげて、教科横断的な指導ができることも分かりました。

また、児童にとって使いやすくするための配慮としましては、導入部分の4コマ漫画が興味を引くこと、説明がとても詳しいこと、資料が充実していること、書き込みながら学習できること、アスリートのメッセージやコラムで興味、関心が高まること、さまざまなマークが理解の補助になっていることなどが挙げられました。

全ての発行者に共通していることとしましては、ユニバーサルデザインに基づいたフォントや色使いになっていることが分かりました。

次に、一般の方からのアンケートの声を幾つか紹介します。

どの教科書もカラーになり、写真や図が多くなっていることに驚きました。健康に生きる力をつけてほしいです。また、保健の教科書で自分と環境について学べるようになったのはとても良い。さらに、LGBTや、ゲーム依存がゲーム障害という精神疾患として認められたので、それらも扱ってほしいといった意見がありました。

それでは、調査の観点に沿ってお話しいたします。

まず、1、内容の(1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の採択に対して配慮しているかについてですが、各発行者とも児童が自ら課題を解

決できるように工夫をしています。学習課題を提示したり、児童が自分で考えて記入できるようにしたりしている点、身近な例をもとに話し合い活動をして課題をpushさえたりといった工夫が見られました。

1の(2)児童の発達段階に対して配慮しているかについては、選択式や記述式、箇条書きなどで児童が理解しやすいようにしていたり、シールをはって振り返ったりといった工夫も見られました。また、各発行者とも、発展的な内容を扱うというのもよくしています。

2、構成上の工夫の(1)重点調査項目、「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けて配慮しているかについては、各発行者の構成に違いが見られました。

東京書籍は、「気づく、見つける」、「調べる、解決する」、「深める、伝える」、「まとめる、生かす」の4段階の構成になっております。

大日本図書は、「やってみよう」、「話し合ってみよう」、「活用して深めよう」の3段階の構成です。

さらに学研は、「つかむ」、「考える、調べる」、「まとめる、深める」の3段階の構成になっております。

文教社は、「振り返ってみよう」という項目を各単元に配置して実生活から学びに向かわせていること、また、光文書院は「話し合おう」という項目を各単元に配置して対話に重点を置いた授業を意識していることが分かりました。

各発行者の違いはありますが、「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けてそれぞれ配慮がなされています。

2の(2)各領域の分量について、児童の発達段階を十分配慮しているかについてですが、小単元を見ると見開き2ページの構成にしたり、情報量を抑えて児童が考え書き込めるようにしたりといった配慮が見られました。

3、ユニバーサルデザインに関する配慮をしているかの(1)児童にとって読みやすい表現であるかについては、文章を簡潔にして分かりやすくまとめたり、逆に情報量が多いところでは文字や枠囲みで強調して分かりやすくしたりといった工夫が見られました。

3の(2)の印刷、写真、挿絵、図形等が見やすく、分かりやすいかについ

ては、各発行者とも写真やイラストを効果的に取り入れて、児童の興味、関心を引きやすくしています。4年生の二次性徴の表記では、水着の写真や黒い服を着た写真、体育着のイラスト、シルエットでイラストなど、各発行者の特色がはっきりとあらわれました。精通の表記では、複数の精子の写真と1つの精子の写真に分かれました。

4、使用上の便宜の(1)の教員にとって使いやすくするための配慮がされているかについては、一定の流れで授業を展開しやすくしているものや導入に力を入れているもの、児童の主体的な学びに力を入れているものや知識の定着と生活への活用を促しているものなど、各発行者の特徴が見られます。

また、動画やウェブサイトへのリンクなどは各発行者とも用意しています。また、今日的な課題としてがん教育や多様な性、危険ドラッグなどがありますが、それらの取り扱い方については各発行者に違いが見られました。

最後に、4の(1)地域性に対する配慮をしているかについては、ほとんどの発行者が地域性に偏りが出ないような配慮がされていました。

以上です。

安間教育長 ありがとうございます。説明は以上でございます。

それでは、まず私のほうからの基本的なこととして、この保健の学習を行う上で、八王子の先生方、どんな教科書が望ましいというような意見をお持ちなのか、把握している範囲でお聞かせください。

平田教科別調査部会(保健)副部長 市内の先生方、どんな教科書が使いやすいかということですが、八王子市の先生方に限ったことではないと思いますけれども、まずはきちんとした基礎知識を学べるもの、その上で、自ら課題を決定しその課題を追求できるような教科書が良いのではないだろうかというふうに考えて、その取りかかりとして八王子市の子どもたちには興味、関心を持ちやすいようなカットや写真が多かったり、カラフルな色彩のものだったりするものが良いのではないかなというふうに考えています。

安間教育長 分かりました。参考にさせていただきたいと思います。

またもう1点、保健の授業公開って、あまり学校ではしないのだろうなとは思いますが、なかなか機会もないかなと思います。ただ、保健の教科書

について何か保護者の方から各学校の校長先生のほうに、何かこんなものが良いのではないかとか、そういうような意見がもしあったら御紹介をいただくアンケートみたいなもので結構です。

平田教科別調査部会（保健）副部長 アンケート、こんなにたくさんあったのですけれども、あまり保健に関するものはありませんでした。それから、あったものもお1人だけとか、同じような意見で何人もというものは少なかったように思います。

複数であったのは、内容というよりかは実際に教える先生方の声がどのように反映されるのか分からないとか、現場の先生方の声を聞いてほしいというような声があったりしました。これはちょっと保護者なのか分かりませんが、働き方改革を行っている中、資料を見るのに放課後の時間や、勤務時間外ではないとできないというようなことは複数書いている人はありましたけど、中身で何とかということはあまりなかったですね。一長一短を述べる個人の意見で、複数の同じ意見を述べたアンケートは見当たりませんでした。

安間教育長 なるほど。どのような保健の教科書というので絞ったというのはあまり具体的なものはなかったということですね。

平田教科別調査部会（保健）副部長 なかったですね。二次性徴のところをもう少しやってほしいとかという、その単発の意見はありました。

安間教育長 分かりました。ありがとうございます。

それでは、他の委員からございましたら。

村松委員 ありがとうございます。

保健は授業時数が少ないと思うのですけれども、こちらのほうの各教科書で何か保健の指導内容、子どもたちの定着ができているのかちょっと教えていただきたいのですが。

平田教科別調査部会（保健）副部長 おっしゃるとおり、体育自体が中学年で105時間、高学年で90時間という中でやっていますので、どうしても、例えば3年生でしたら4時間というような形しかとれない現状があります。ですから、内容を精選して1時間に1つの内容とか、そんなような感じでやっているところ、それからそれをきっかけにして図書館で自分で調べるとか、そのよう

な活動ができるような工夫をして4時間で終われるような形でやっています。

安間教育長 他に御質問ございませんか。

伊東委員 今のお話と関連して、3、4年生で、まず4時間ですか、8時間ですか、5、6年ですと8時間、8時間の16、そういった非常に少ない時間の中で、「主体的、対話的で深い学び」というようなところが問われている中で、何か今、報告の中にもありましたけれども、具体的に「主体的、対話的で深い学び」というのは授業で展開できるのか、ちょっとお伺いしたいと思います。

山村教科別調査部会（保健）部長 まずは時間についてですが、本当に限られた時間だということで、先ほどお話しになりました見開きの2ページという、分かりやすくまとめているという教科書がありました。それから、主体的な学びにつながるということで言いますと、やはり段階を踏んでいる、ステップですとか色々な言い方で書かれています。教科書によって違うのですが、まず学習者である子どもが本当に主体的にこの段階に入っているなというのを実感できるような、そんな教科書の作りが感じられました。

安間教育長 ありがとうございます。

他にございますか。

笠原委員 先生がおっしゃったように、確かに、先生たちは時間的に大変だろうと思うのですが、この各発行者によって取り扱われている基本的な疾病が違うというか、どの教科書でも時間的にこなせますか、分量的にちょっと深いと思うところも逆にあるかもしれないですけども、いかがでしょうか。

平田教科別調査部会（保健）副部長 先ほどから申し上げているところではあります。十分かと言われれば、それはやはり厳しい、先生方が工夫して横断的、縦断的な学習ということで、他の教科と関連させたりとか放課後に自分で調べるとか、そういうところをしているところも多いのかなと。この時間だけで全部理解できたのかというふうになってしまうとちょっと難しいのかなという、オープンエンドで終わらせて、あとは、では興味をもったらぜひやって御覧なさいと、そういうきっかけに、先ほども言いましたけど、きっかけになっているのかなというふうに思います。

安間教育長 他にございましょうか。

柴田委員 現在、人生100年時代というふうにいわれて、今の小学生は平均寿命100歳になるかもしれないというふうな試算が出ていますけれども、そういった社会の中でやはり心と体の健康というものを維持していくということが課題になるので、とても大切な教科だと思います。そこで、若者の逸脱行動として、例えば薬物であるとか喫煙であるとか飲酒であるとか、こういったことへの指導というものが保健の授業でしっかりと行われていく必要があると思います。そういった中で、指導しやすい教科書があれば、まずそのポイントがあれば教えていただきたいと思います。

平田教科別調査部会（保健）副部長 薬物乱用防止というところで、ゲートインドラッグと言われているたばこの誘いを断るといようなのはやっています。保健の中だけではなかなか時間の確保が難しいので、学校医さんとか保健師さんとか警視庁に来てもらったこともありますけど、学級指導とか総合的な学習の時間というところでやってもらったりとかしている、そうやって時間を確保しているような状況ではあります。

安間教育長 ありがとうございます。

他に御質問ございますか。よろしゅうございますか。

それでは、保健に関して各委員の御意見を伺いたいと思います。いかがでしょうか。

笠原委員 私は医療に身を置っていますが、実は我々が専門家として営んでいる学会があるのですけれども、そちらのほうでは学校教育にどこまでしっかり教育してもらおうという委員会があるぐらいで、まだ届いてないものがたくさんあると思いますけれども、できればそこからそういったもう偏見とかを越えて知ってないと思えないものですか、そういった問題も本当に多うございますので、そういうことをしっかりと教える時間があると良いということはもう分かっているのですが、それで、先ほど来おっしゃっている、時間に限りがあるもので、せめて教科書に書いてあったら、子どもがちょっと目を通してくれたら良いなと願うところはあります。そんな視点で、疾病教育という視点からも保健の教科書を見ていきたいと思っております。

安間教育長 分かりました。ありがとうございます。

他にございますか。

伊東委員　私も、実技教科の中で「主体的、対話的で深い学び」がどの程度実現できるか、やはり保健、自分の体を考えるということ、リスクを考えるということとか、あとは対話を通して深めていくとか、そういったことというのはやはり偏見や差別にもつながっていく部分というのが当然あるわけなので、そういうことからいくと、とても大事な教科でありますから、学習活動でありますので、「主体的、対話的で深い学び」ができる学習スタイルとか、そういったことも工夫されている、そんな教科書を選んでいきたいなというふうに思っております。

安間教育長　ありがとうございます。

他に御意見はございますか。

村松委員　心と体が生きるという人間のもちろん基本なので、子どもたちがみずから健康に関心を持って、どうすれば健康な生活を送ることができるのかを自分のこととして捉えることができる教科書が必要だと考えているのですが、難しい内容のものは写真やイラストを適度に扱う、そして思春期に入っていく年齢の児童にとって適切に体の仕組みが分かるように、自分の体が分かれば相手の体も分かる、そういう配慮をされているものを検討して精査していきたいなというふうに思っております。

以上です。

安間教育長　ありがとうございます。

柴田委員　私も、子どもたちが自らの心身を守っていくための素材となるような、例えば現代的な課題というところにも力を入れた教科書を見ていきたいと思えます。

安間教育長　ありがとうございます。

他に御意見はございますか。

ないようでございますので、保健の協議についてはこれで終了させていただきます。

次の種目に移ります。

安間教育長　それでは、英語についての協議を始めます。まずは、調査部会から御報告願います。

河村教科別調査部会（英語）部長　調査部会の部長をさせていただきました、由井第三小学校校長の河村です、よろしく願いいたします。

伊藤教科別調査部会（英語）副部長　同じく副部長のみなみ野君田小学校、校長の伊藤祐子です、よろしく願いいたします。

河村教科別調査部会（英語）部長　それでは、報告に入らせていただきますが、まず初めにアンケート結果と学校調査について、伊藤副部長からお話しさせていただきます。

伊藤教科別調査部会（英語）副部長　市内2か所に開設されました教科用図書展示会場で回収したアンケートの中で多かった意見が次の2点です。1つ目は、学習する内容が難しく量が多いので、子どもたちや教師の負担にならないか、また、英語嫌いの子どもが増えるのではないかという意見です。

2つ目は、中学校英語にどう結びつけていくのかという意見の2点です。

今回初めて英語の教科書ができるということで、保護者や周囲の皆様はその内容について大変興味、関心を持っておられることが分かりました。この2点について、教師側の指導の仕方によっては解消される部分も多く、そのためにはどの教師にとっても指導しやすい教科書であることが望ましいと考えます。

また、児童にとっても意欲的に学ぶことができ、無理なく楽しく5技能、5領域の力を身に付けていくことができる教科書であることは重要なポイントです。

この点において、各学校における調査結果では、教師にとって使いやすいのは、単元の流れや1時間の流れが分かりやすい教科書、学習の流れが統一されている教科書という意見が多く見られました。英語指導に慣れてない教師でも見通しを持って指導できることは重要視されているようです。

また、児童にとっては、興味、関心が持てる内容になっている教科書、1時間ごとに何を学習するのか分かりやすい教科書という意見でした。

以上です。

安間教育長　補足はありますか。

河村教科別調査部会（英語）部長　　今のようなアンケート結果、それから学校調査結果を受けまして、今度は調査部会での結果について御報告したいと思います。

まず、各発行者の教科書の内容についてですが、学習指導要領に示された目標や内容について十分配慮してつくられていました。また、各発行者とも学年に応じて児童にとって大変興味を持てる内容になっており、5、6年生の2年間で自分の身の回りのこと、身近なことからだんだん視野を広げていくというように、発達段階に配慮した単元配列の工夫が見られました。また、どの教科書においても、6年生では中学校への接続ということも意識されており、単元として取り扱ったり、また単元とは別に中学校につなぐ工夫としてページを設けたりしていました。

次に、構成上の工夫ですが、主体的学びの実現に向けて配慮しているかどうかという点についてですが、各発行者ともここは配慮されていました。学ぶ内容、学びの場の設定、会話やコミュニケーション活動において児童が見たり聞いたりしながら推測したり、情報を整理しながら考えたり、表現したりする内容が盛り込まれています。また、対話的な学びの実現に関しましても、児童同士でグループでの話し合いやコミュニケーション活動を多く取り入れる配慮がなされていました。

次に、ユニバーサルデザインに関する配慮については、どの教科書も児童にとって指示や設問の表現が分かりやすく読みやすくなっていました。印刷、写真、挿絵、図形などにも配慮がなされていましたが、写真については色のインパクトが強いということもあり、あまりたくさん使用すると児童によっては抵抗感を感じるということも考えられるのではという意見もありました。

続いて、使用上の便宜についてですが、各会社とも、どれもだんだん親しみが深まっていくようにステップを踏んで活動等が組まれていました。紙面の構成によって1時間の流れや単元の流れを分かりやすくしたり、また授業の進度が分かりやすくなるようにしたり、教師や児童にとって使いやすくなる工夫や分かりやすく学習ができる工夫がそれぞれ工夫されていました。

それから、家庭学習を行う際の配慮ということについてですが、主に学校図

書、光村図書、啓林館、開隆堂、東京書籍の5社の教科書において、家庭学習として十分活用できそうなページがあるというふうに調査報告が上がっております。

その他につきましては、QRコードがついていることは非常に指導に不慣れな教師や英語力が十分でない教師にとっては指導の手助けになり役立つのではないかという意見が多く聞かれました。

報告は以上でございます。

安間教育長 ありがとうございます。

それでは、まず私のほうから。いよいよ英語が始まるわけですがけれども、今、準備をして、大変だと思うのですがけれども、現場の先生方は今この英語の教科書を指導するのに何に困っていますか。

河村教科別調査部会（英語）部長 今現在、先生方のお困りで大きいのは、やはり自分自身に英語力がないから指導できないのではないかとか、何かそういうふうに不安に思っている先生がたくさんいます。

安間教育長 ありがとうございます。

そうすると、それに応えられる教科書というのはどんな教科書が良いのでしょうか。

河村教科別調査部会（英語）部長 先ほどもちょっと触れましたけれども、やはり、1単元の流れが分かりやすいもの、また45分の流れが分かりやすいもの、それから順を追って指導をしていけば1つの45分の授業が完結するというような作りになっている教科書だと先生方は安心して指導ができるのかなというふうに考えます。

以上です。

安間教育長 なるほど、よく分かりました。

もう1つ相互関連なのですが、校長先生方、英語の授業が始まることに関して保護者の方から色々な期待か何かありますか。そういうお声があったらちょっと紹介してください。

伊藤教科別調査部会（英語）副部長 アンケートの中からは、期待より不安のほうが多かったと思っています。ちょっと学習する量が多過ぎると、他の教科も

含めて、それで学校にかなり負担がかかっているのではないかという声がかかり多かったです。

安間教育長　　そうするとそれに応えられるような教科書というのはどんな教科書が良いのでしょうか。

伊藤教科別調査部会（英語）副部長　　今、河村部長が言ったこともそうなのですが、1時間の中で身につけさせたい力が明確に分かることと、それから児童の学習活動が一目で分かる教科書が良いと思います。

安間教育長　　分かりました。ぜひ参考にさせていただきます。

他に委員の方から御質問ございますか。

笠原委員　　英語が本当にいよいよ始まるということで、期待と、でも不安もあるかなと思っております。やはり、小さいうちから語学に触れるということはとても大きな運びになっていくということで、スタートが本当に大変だと思うのですが、何とかうまくいくと良いなと思っております。すごく具体的なことなのですが、教科書に日本語がいっぱいあったほうが先生たちは使いやすいのか、あまりなくてもそれは関係ないのか、ちょっと教えていただければと思います。

伊藤教科別調査部会（英語）副部長　　ある程度あったほうが分かりやすいとは思いますが、あまりごちゃごちゃするほどはないほうが良いと思います。小学校英語ぐらいだったら教員でもちゃんと読めますので。

安間教育長　　力強いお言葉でした。

他に御質問ございませんか。

村松委員　　本市は独自で英語音声教材とかも作っております。それをどのように並行して市のほうのその英語の授業をしていくのかというのが1点。

それと、もう1つ、来年、中学校の教科書検定がありますけれども、今、小学校の教科書を見比べてみたりしているのですけれども、思いや作りが各発行者で違うので、同じ教科書発行者を選ばなければ、来年その小学校、中学校の接続のその辺の配慮とかそういったことは大丈夫なのかなというのをちょっと心配しているのですが、いかがでしょうか。

野村統括指導主事　　英語の音声教材、昨年度作成いたしまして、今年度から活用

を図っているところでございます。ここで新しく採択されたことになりますので、新しく採択された教科書用に作り直します。そして、もっと子どもたちが意欲的に活用できるように、例えば、何問かやったら修了証がそこで出るとか、そんなような形でどんどん活用できる、そしてそれが授業でも活用できるようなものによりよく改善を図っていきたいというふうに考えておりますので、採択された教科書に合わせたもの、そして授業で取り組めるようなもの、そのようなものにどんどん作り変えて、さらにより良いものにしていきたいというふうに考えているところでございます。

中との接続については、やはり中学校の先生方にも小学校の教科書を使っていただいてどういうものかちょっとよく見た上で、やはりどうやったら英語活動、中との接続が図れるかという、実際これで導入されますので、そういうところを取り組みを行っていきたいと思います。

また、今、小中一貫教育推進講師が英語のほうも入っておりますので、その英語の先生は小学校に行っている自治体もあるので、それで小中の接続をやっているところもでございますので、そういうところの効果検証とかも踏まえながら、円滑な接続を図るにはどうしたら良いかということをやったりここで検討をぜひしていきたいというふうに考えております。

安間教育長 いや、ちょっと、多分、村松委員が聞きたいと、念を押したかったことはちょっと違うと思うのですが。村松委員はむしろ関係ないですよねということをはっきりと言っていたかたかったのではないですか。小学校と中学校が同じでなくてはいけないのか、もしかその接続性の必要があるとか、そういうことがないのだということを確認に言ってもらいたいのですが、それは正しくないですか。そうしなければいけないのですか、むしろ。そうなってくると、この教科書採択の制度そのものがおかしい話になってしまう。

野村統括指導主事 小学校の学習の流れの中でやったところで、そこはちょっと検討させていただけますか。

上野統括指導主事 小学校の外国語、英語の教科書と中学校の教科書につきましては、全て学習指導要領に準拠した検定教科書になりますので、どちらの教科書を選びましてもその接続性ということに対しては特に問題なく実施できるか

と思います。

以上であります。

安間教育長　　ということです。それは当たり前のことですが。

他に御質問等がございますか。

柴田委員　　小学校の5年生のほうの英語で五技能というところをこれから周知していくというので大学受験がまた変わってくると思うのですけれども、そういった意味で、音声教材の話は先ほど出たのですけれども、書いたり、読んだりという場合に、例えばノートのとり方とか何かプリント教材を教員が配布して作るとか、そういった部分で使いやすい教科書というのはあるのでしょうか。

河村教科別調査部会（英語）部長　　教科書発行者によっては、巻末に、特に書くことに重点を置いて学習できるページをたくさん盛り込んでいる発行者もあります。

それから、先ほど報告の中でもちょっと家庭学習のことにも触れましたけれども、次期学習指導要領の中で、書くことの目標として大文字、小文字を活字体で書くことができるようにすること、それから標準を意識して、あわせて十分な親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにするというふうにはっきり明記されていますので、やはり書くということに関しては、しっかりと力をつけていかなければいけませんので、この教科書のそういう巻末の書くことを何度も繰り返して行えるような例示とか、あとは、もしくは要点を模索したものを家庭学習として渡してそこに活字を書いてくるとか、そういう繰り返しの学習ということは必要になってきます。

そのために教員が、教材開発というよりも教科書を活用したり、今お話ししたように要点を印刷して渡したりとか、そういうことが必要になってくるかというふうに思います。

安間教育長　　ありがとうございます。

他に御質問。

伊東委員　　御説明ありがとうございました。

学習指導要領ではこれから始まる、本当に大変というよりは頑張っていただきたいなというふうに思うのですけれども。

この、英語は70時間ですよね。ということは週2コマ。これは2コマとも同じような形で使えるというふうに考えて良いのでしょうか。

一時期、1つはモジュールとかそのような話がありましたけれども、2時間ともこの教科書を使って教室で授業ができるというか、そういう設定で考えていらっしゃるのですか。

河村教科別調査部会（英語）部長 指導計画上はそのような形になっております。
安間教育長 他に御質問等ございますか。よろしゅうございますか。

それでは、教育委員さんそれぞれの御意見をここで、現時点での御意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

村松委員 ありがとうございます。

新しく導入された外国語ですけれども、指導する教員も児童も手探りの状況の中であると思います。そんな中、コミュニケーション活動でグループワークですとか、また、共同的に学び合える活動ですね、英語になれ親しんでもらえる、小学校ではとにかく楽しく学べるように御配慮をしていただきたいというのがあるのですけれども、基礎的な知識、先ほどおっしゃってました大文字、小文字をしっかりと書ける、そういったものもそうですし、自己表現ができやすい、発達段階で聞く、話す分かりやすいものが望ましいと考えております。

教員の目標やどのように学ぶのかといった児童の学びのプロセス、そういうのを明確化してやっていける、そういう教科書を検討していければなと思っています。

安間教育長 ありがとうございます。

他に御意見ございますか。

柴田委員 先ほど御意見を伺いましたように、現場の先生方にとって、今回初めて教科書を使っての英語なので、使いやすい教科書といった意味で、単元が1時間というようにしっかり示されているもの、その教員の力量によって子どもたちの能力に差がつかないようなもの、それからスモールステップで進めていけるといったような観点で精査していきたいと思います。

安間教育長 ありがとうございます。

他に御意見ございますか。

笠原委員　私ももう同じようなことですが、やはり、子どもにも先生にも、とにかくスタートラインの学習ですので、負担になり過ぎず、でもやはり興味を持って、言葉ですので、やはり本来獲得したら楽しいはずだと思いますので、言葉として学べるような、そしてその指導要領に即した形で、分量が多過ぎず少な過ぎずのものを選びたいと思っております。

安間教育長　ありがとうございます。

伊東委員　そうですね。やはり3、4年生では外国語活動が入ってきまして、3、4年の外国語活動とは違う外国語、5、6年でやるのは評価が入ってくるわけですね。そういう意味では先生方が自信を持って授業ができて、学びが展開できるような教科書を選んでいただくと良いのではないかなというふうに思っております。

安間教育長　ありがとうございます。

各委員の皆様と共通したような意見ですが、私もほかの教科も重要で、ちゃんと熟考いたしますけれども、英語に関しては冒頭で質問させていただいたみたいに、今、これから始まる先生方が何に困っているのか、それに一番対応できるようなものというものを、これから私自身も精査して考えていきたいというふうに思います。

他に御意見はございませんか。よろしゅうございますか。

それでは、英語に関する協議はこれで終了したいというふうに思います。

それでは、次の科目、最後の道徳に行きます。

安間教育長　それでは、道徳についての協議を始めたいというふうに思います。

まずは調査部会から御報告をお願いします。

徳丸教科別調査部会（道徳）部長　それでは、これから道徳部会の要点をお伝えしたいと思います。

では、内容につきましては、3つに分けてお話をしていきたいと思っております。

1つは、表を作ってはあるのですが、この報告書を見てというよりは現物の教科書を見ていきたいと思っております。

1年生の「橋の上のオオカミ」という、これ、原作教材といわれておりまし

て、全ての教科書の会社に入っております。これが1つです。

2つ目は、副部長から教員のほうのアンケートの報告をさせていただきます。

そして最後に、お時間ありましたら、一般の方々のアンケートのポイントをお伝えしたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

八王子の子どもたちは、本当に子どもらしく人懐こくて、学ぼうという意欲がたくさんあります。防災や安全ボランティアさんと地域の方にも大変恵まれており、地域力がある中で、子どもたちはすくすく育っています。ぜひ、この道徳の時間が心を耕す時間として特別な時間になってほしいなという願いがあります。

若手教員も今多いのですが、日々、先輩教員に指導を受けながら頑張っています。

その中で課題は、個に応じた支援を要する子が少なくないということです。そういった観点でどの子どもも参加しやすい授業を目指しているのですが、ユニバーサルデザインの観点、これが大切になってくると思いますので、よろしく願いしたいと思います。

では、これから内容に入っていきますけれども、ユニバーサルデザイン、この3つをポイントに見ていきたいと思うのですが、1つは今のユニバーサルデザイン、そして自己評価、そして別冊ノートがある発行者が3つあります。ですので、このユニバーサルデザイン、自己評価、別冊ノートを見ながら進めてまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

まず、東京書籍になりますが、付箋をつけておりますので、そのページを御覧いただいております。東京書籍につきましては、文節ごとに間隔をあけて読みやすくしています。漢字の読み仮名もつけてあります。それから、5行ごとに小さく行番号もつけております。

なお、このお話の最初に「はじめに」というところに、最初のページに小さくありますが、今日の学習がどんなことを考えるかを端的に示しています。ユニバーサルデザインでは焦点化にあたります。文末には教師の問いが示されていません。東京書籍の場合は問いが示されていません。ただ、教員のほうは指導書がございますので、それに沿って授業を行います。その点ではこれは自由

度があります。

教科書の巻末、この東京書籍の一番最後のところなのですが、114ページなのですが自己評価がありまして、学習の振り返り、これについては2つ項目について振り返るようにしてあります。量的にはちょっと少ないかな、負担がないかなと思います。

2つ目です。学校図書になります。付箋の64ページを御覧ください。

4ページにわたってお話がありますが、この4ページが終わった後に、学校図書の場合は別冊ノートがありまして、これが学びというノートになります。

学びのほうは、関連するページが17ページになるのですけれども、別冊としてこうやって記述をする、それから問いはもう既に書いてあります。ですから、この問い、決まった問いに対して、子どもたちが自分の考えを書くということになります。また、友達の考えを聞くところもあります。

3つ目です。教育出版です。70ページになります。

冒頭のひよこのキャラクターの問い、一文ですが、親切にする側とされる側の気持ちを考えさせようとしています。

同じように話がありますが、教科書発行者によっては文章の内容が割愛されたり何となくまとめたりしておりますので、発行者によっては文章の細かいところが違うということです。

文末には「考えよう、深めよう、やってみよう」と学習の道筋を示しています。ですので、ここで問い等があります。そして、巻末になります、教科書巻末ですが、「学びの記録」があります。

ただ、この教科書につきましては、自己評価で色を塗るなどの作業はありません。日付等で記述をしております、そして、最後に1年のまとめとして心に残ったのはどれですかというような形で負担なく記述をさせるようにしています。

次になります。光村図書です。サイズをちょっと見ていただきますと8社の中で一番小さいのですけれども、ほかの算数とか国語の教科書等と同じですので、机には入りやすいかなと思います。

90ページを御覧ください。ハートのキャラクターが最初問いを示していま

す。今日の1時間、何を考えるのかなという、ちょっとささやかなのですが、こういうところがすごく配慮されているかなと思います。

ページ数が6ページになります。その後に、キャラクターもとてもかわいらしいかなという感じはします。考えよう、話し合おうと問いを示しています。

しかしながら、この後ろに書いてあるものをそのまま全てやりましょうということではなくて、教師の自由度はあろうかと思います。これ、ある参考例として示していると考えて良いと思います。

そして、最後なのですが、教科書の巻末を御覧ください。140ページになります。ここは自己評価を、これは1年生なのですけれども、花びらで色を塗るようにしています。例えば5枚、4枚、3枚、2枚、1枚と評価をさせるようにしています。これがちょっと特徴があります。

では日本文教出版、48ページを御覧ください。これもフクロウのキャラクターが「親切ってどうして大切なのでしょう」と学習の考えるめあてを示しています。本当に、各発行者によってこの問いが違うというのも特徴かと思います。

そして、登場する動物、粗筋を緑であらわしています。これも工夫と言えらると思います。そして、次のページにも学習の手引きがあり、動作化などの例示が示してあります。

よろしいでしょうか。では、次に入ります。

なお、日本文教出版も別冊ノートがありまして、別冊ノートのほうは14ページになるのですが、記述をさせるようにしています。

大体1年生ですので、2学期ぐらいからこうやって書かせるような配慮をしています。1学期の分は丸をつけたり選ばせたりというような工夫をしています。この14ページにも、やはり最後の1行にはキャラクターがありまして、自己評価で色塗りをさせるようにしています。

では、学研になります。

サイズを御覧ください。先ほどの一番小さい教科書と、これが一番大きな教科書になります。A4判です。その分はインパクトがあろうかなと思いますが、92ページを御覧ください。ページ数も3ページで記述になっています。文末

には、「深めよう、そして考えよう」で問いを示しています。こういった問いがあります。

そして、136ページ。なお、この学研につきましては色を塗る自己評価等はありません。最後の1ページだけ、「心の宝物」ということで心に残ったお話を書いてみましょうというような形になっています。なので、自己評価については詳しいそういったものはないということです。

廣済堂あかつきになります。72ページを御覧ください。

冒頭の問いはありません。ただ、授業では教師は必ず今日のめあては示すと思いますが、教科書には載っていません。4ページにわたって物語があります。そして、文末には「考えよう、話し合おう」という問いがあります。このあかつきにつきましても別冊ノートがあります。この関連するページ、これが7ページになります。こういった感想等を書くページがありまして、その後のページもめくっていただきますとかなり書く量が多い部分があります。こういった別冊ノートがあります。

最後に、光文書院です。これもA4判とはいいますが、ほんの少しだけ上が切っておりましてほぼA4判という形になります。最初に内容を示し、このような問いも各社によってさまざまですね。今回、これにつきましてはコマにして1から8まで、ここでストーリーを漫画のような形で示している、これも工夫かなと思っております。話のストーリーを分かりやすくしようとする工夫です。

なお、下のほうには問いが2つあります。これの授業での発問になると思います。そして文末にはまとめ、それからこれからの自分の生活に生かすことを考えさせようとしています。といったような流れで1時間の授業の流れを組んでいます。

そして、最後になりますが、教科書の巻末を御覧ください。ちょっとこれは難しいのですけれども、顔の輪郭を毎時間描くと、例えば分かったということは口をあけて、疑問に思う時はクエスチョンマークをつけるとか、良いなと思うとにこっとしますね、つまりそんな形で1時間1時間を振り返らせるような工夫を1年生にしようとしています。2学期以降につきましては、一言という

ことで言葉を書かせるようにということになっています。

こういったところが各発行者の教科書の特色になります。

では、2つ目になります。

福岡教科別調査部会（道徳）副部長　私のほうから、教員、児童、それぞれにとって使いやすくするための配慮について、市内全小学校から提出された調査研究報告書に上げられていることについてをお伝えします。

まず、教員にとって使いやすくするための配慮です。発問が詳しく載っているなど、授業の展開を考えやすくする工夫がされている。主題を捉えやすくさせたり学習の見通しを育てやすくしたりするなど、主体的な活動につながるようになっている。マークや色分け、配置などの工夫により、目次や内容項目の一覧が整備されている。発展的な発問などが工夫されていて、学習後の日常における実践につながりやすくなっている。伝統的に扱われた教材や親しみやすい教材がある。また、家庭や地域との連携を考慮したものになっている。

次に、児童にとって使いやすくするための配慮です。

文字や挿絵、写真が見やすかったり、効果的に使われたりしている。学習の流れや進め方、発音が分かりやすく示されていたり、マークが活用されたりしていて、学習の見通しをもちやすくなり、主体的な学習につながりやすい。マークや色分けなどにより目次が工夫されていて、見通しをもちやすい。それから、内容項目を捉えやすいよう、分かりやすい言葉で示してある。

また、発達に応じた教材、興味をもちやすい教材、親しみやすい教材がある。ユニバーサルデザインフォント、行番号の活用、国の名の表記などもユニバーサルデザインになっている。グラフやワークシート等を活用して、振り返りがしやすくなっている。これらのことが挙げられておりました。

以上です。

徳丸教科別調査部会（道徳）部長　最後になりますけれども、一般の方のアンケートの御意見です。

主は、子どもたちへの負担を心配されている御意見がありました。その内容は2つあります。先ほど教科書を見た時のポイントになります。

1つは、自己評価については不要と、自己評価を毎時間、授業でのするのは

何のためでしょうというような疑問の方もいらっしゃいました。

2つ目、小1から別冊ノートを使って書くことが多過ぎるということの2点につきましては、否定的な御意見でございました。

全体的には、取り上げている教材は良いものが多いですねというような御意見もありました。一部、やはり教材によってはどうなのかという御意見がございました。以上になります。

安間教育長 ありがとうございました。

只今、調査部会の報告が終わりました。私のほうから2点ちょっと確認をさせてもらいたいのですが、先ほども国語等のところでお話ししましたが、学習指導要領の道徳は1、2年、3、4年、5、6年、2学年ごとにまとめて示してありますよね。当然、教科書については別の教科書になったとしても、そのつながりについては不都合はないと考えてよろしゅうございますね。

徳丸教科別調査部会（道徳）部長 全学年、現在使っている東京書籍を含めまして、バランスよく各学年、8項目入っておりますので、支障はありません。

安間教育長 もう1つ。働き方改革の話もあったのですけれども、前回採択したのが2年前でしたっけ、ですから今年2年目の使用になっているわけですよね、各学校。2年前に一生懸命、年間指導計画を立てて、昨年、1回やって検証して、今年その検証結果で若干の修正をしながら今やっているところですよ。

余計なお世話かもしれませんが、採択替えをしても学校の先生方の負担はさほど大きくはないというふうに考えて良いですか、負担がないということはないと思いますので、大丈夫というのは現場の校長先生方の感覚で、そんなのでしょうか。

徳丸教科別調査部会（道徳）部長 今の質問なのですが、その年間指導計画を作る負担なのか、新しい教科書になって、またゼロから作るという意味でございましょうか。

安間教育長 そこで変えることで新しくやらなければならないわけですよということ。

徳丸教科別調査部会（道徳）部長 この教科書には、そういった年間指導計画、教科書会社のいわゆるベースがありますので、それを各校、自分の学校を考え

て、例えば地域教材を考えたり、それは組みかえたりというような形ですので、ベースはどこの会社でもあると思いますので、活用できるかと思います。

安間教育長 要するに、さまざまな工夫をするから、学校としてはここでフリーで我々は議論をしても全く問題はないですよ、そういうふうに理解してよろしいですね。

徳丸教科別調査部会（道徳）部長 問題ありません。

安間教育長 ありがとうございます。念のため確認させていただきました。

他の委員から御質問等ございますでしょうか。

村松委員 ありがとうございました。

今こちらのほうに1年生の道徳の教科書が並んでいるのですけれども、この大きさですよね、高学年は良いと思いますけれども、1年生でこの大きさで見たり、開いて授業を聞いたり書いたりするというのは、これは適切なのかな、どうかなというのはこの検証というか理念に立っていかげなものでしょうか。

徳丸教科別調査部会（道徳）部長 今使っていますのが、A B判といいまして中間ぐらいになります。支障はないのですけれども、子どもたち、1年生を考えれば、やはり小さいほうが良からうかなと思います。

安間教育長 他に御質問等ございますか。

伊東委員 御説明ありがとうございました。

特別の教科道徳になってから、小学校のほうで数年経っていますよね。そういう意味では評価をされているのだと思いますけれども、評価をする上で子どもたちの自己評価というのは必要かなと思いますが、教科書になったこの数社でしょうか、自己評価を記入する欄がありますけど、これって教科書にあるのと、例えば、先生方とかワークシートでやる、その時に一定評価をされる場合もあると思うのですが、教科書にこういった評価欄があること自体についてはどのように考えていったら良いか、ちょっとお伺いしたいと思います。

徳丸教科別調査部会（道徳）部長 これ、毎回、子どもたちは記入しなければいけないという負担感は否めないところはあります。

こういった評価を毎時間、自己評価をさせる学校も少なくないのですが、常に悪いほう、自分はできてないほうにずっと何回も記述をしていった場合に、

これ、指導と評価が一体になりますけれども、では、これは授業力はどうかということになるのですが、それをその評価をさせただけではなくて、教師がそれを見て次の授業を、では改善していこうと、その子にスポットを当てていこうというような活用であれば、それは使えるかと思います。

安間教育長 ありがとうございます。そのとおりですね。

笠原委員 この部会でも本当たくさんの良い課題が集まっていると思うのですが、どうしても文字に頼ることになっている教科書かなと思うのですが、読むことが苦手であるとか、そういった配慮を要する子どももいると思う、多いと思うのですが、そういった子どもに対する配慮ですとか、それからあと、ちょっとQRコードが所々に入っているものがあるのですが、どんな内容がQRコードから読み取れるのか、その辺を教えていただきたいと思います。

徳丸教科別調査部会（道徳）部長 QRコードの内容につきましては、現物を私どもはまだ見ておりません。

ただ、案内とか紹介の文面は見ておりまして、例えば今絵がありましたけれども、この場面絵、これを見ることができたり、それからワークシートを見ることができたりします。といった、その教科書に付随したいわゆる教材的なものを見ることが出来ます。

笠原委員 そうすると、そういった少し映像、絵とかそういった形で文字を読み取ることの苦手な子のサポートになるとお考えでしょうか。

徳丸教科別調査部会（道徳）部長 ただ、1年生で例えばiPadでぱっと見て、そういった作業が将来的にはあるかと思うのですが、今すぐにはそういった可能性というのはなかなかできない現状があります。なかなかそのQRコードをすぐ使うということは、すぐ今はなかなかできないということです。難しいかなと思います。

笠原委員 1年生のことだけ、ではないですよ、今。教科書ですので全学年なので、高学年であればその辺、少し楽になるのでしょうか。

徳丸教科別調査部会（道徳）部長 いわゆるそういった機材が手元にあり、活用を行えばということだと思います。

笠原委員 ありがとうございます。

安間教育長 他に御質問等がありますか。よろしゅうございますか。

それでは、道徳の教科書に関する現時点での御意見、お伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

村松委員 2年前の道徳の教科書検定の時にもお話ししたのですけれども、道徳で大切なことは、道徳の知識を身につけるだけではだめで、みんなで意見交換をしながら学習して、この道徳の授業の一助として自立心、共生心を養っていく、みずからの基本として、実際に行動できることが大事だと思っております。

これ、道徳の授業で心の鍛錬もしてもらいたいと願っているのですけれども、特に、この道徳の授業で生命の尊重やネットリテラシーを子どもたちがはっきりと意識しながら学習を進めることができる、そういう教科書が私は必要ではないかなというふうに考えて検討していきたいと思っております。

以上です。

安間教育長 ありがとうございます。

他の委員。

柴田委員 道徳の教科書は、教科書の中だけの世界ではなくて、そこで学んだことを自分自身に置きかえて考えてみるとか、クラスの友達との関係について置きかえて見られるという当事者意識をしっかりと学級経営の中で育むということが重要なのではないかと思います。

そういった観点から、特に、その当事者意識をどう育むかということや、それから学級経営の中で特にいじめの問題ということ、こういったことにしっかりと取り組んでいる教科書について見ていきたいというふうに思います。

安間教育長 ありがとうございます。

笠原委員 子どもたちがちゃんと考える力をもって、人としてきちんと必要なことを考えていけるような材料、題材であることを考えておきたいと思っております

安間教育長 ありがとうございます。

伊東委員 ありがとうございます。

特別の教科道徳ということで数年前改定されたわけなのですけれども、その

中でやはり重要な視点としては、いじめ問題の対応というのがあって、問題解決的な手法、学習の手法を取り入れて議論したり、考えたりする、そういう道徳を目指し、改定がされたわけですので、そういった教材がどのくらいあるのか、そういったことについてしっかりと見ていきたいなというふうに思っております。

以上です。

安間教育長 ありがとうございます。

他に御意見はございますか。よろしゅうございますか。

それでは、御意見が以上でございますので、道徳に関する協議は終わりにさせていただきますというふうに思います。

以上、13種目、協議をさせていただきました。

以上をもちまして、令和2年度八王子市立小学校使用教科用図書の採択についての協議、全て終了いたしました。

冒頭に委員の皆様方にお諮りいたしましたけれども、本日はこの各委員の意見も含めてお持ち帰りいただき、1週間、しっかり熟考していただいて、次回、8月7日の教育委員会定例会において、各教育委員から最終的な意見を述べていただき、各教育委員が推したい教科書の投票を行ってまいりたいと思います。

その際ですが、お諮りいたします。

採択理由を我々の公開としてどういうふうにしていこうかという、今日の協議もひっくるめて、次回その最終的な意見をいただいたものを議事録として公開するというのもって、採択理由としての公開とさせていただきたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長 それでは、次回の時にさらに具体的な御意見をいただきたいと思えます。

なお、その間にもまださまざまな御質問等が出るかなとは思いますが、今回の協議を受けての質問、また、もう一度熟考した上での質問等がございましたら、8月7日までの間に事務局まで連絡をしてください。

事務局は、なお、どのような質問があったのか等についても、8月7日に全

部の、他の委員にも分かるように報告をするようにしてください。

以上をもちまして、本日の協議事項を終わりにさせていただきます。

他に何か報告する事項等がございますか。

設楽学校教育部長 指導課から1件、市立中学校生徒に係る事故への対応状況について報告がございますが、内容が個人情報に及ぶため非公開で報告させていただきたいと思います。

安間教育長 それでは、本件については非公開での報告とすることで御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長 御異議ないことと認めます。

また、これで公開の審議は終わりますが、委員の方から何かございましょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長 よろしゅうございますか。

それでは、これからの審議は非公開となりますので、傍聴の方は御退席を願います。ありがとうございました。

【午後4時12分閉会】